

令和 8 年度弘前市総合計画審議会の進め方

1 弘前市総合計画の進行管理

弘前市総合計画を推進するため、「弘前市協働によるまちづくり基本条例」に基づき、市民との協働により毎年度、計画の達成度を評価し、見直しを行います。

「総合計画審議会」において市民等審議委員による計画の進捗状況の確認や、行政の自己評価等に基づく「計画の見直し案」への提言を行います。（弘前市総合計画より抜粋）

2 令和 8 年度の審議の進め方（方針）

- 1) リーディングプロジェクト（ひとの健康、まちの健康、みらいの健康）については、令和 9 年度を始期とする次期総合計画において継承しないため、令和 8 年度の審議対象外とします（一次評価は実施済み）。
- 2) 今年度の審議は、現行の弘前市総合計画の二次評価および次期弘前市総合計画案について、9 回開催を予定しています（書面審議 1 回を含む）。
- 3) 現行の弘前市総合計画の二次評価は、第 2 回～第 3 回の審議会により、〔事務局選定 6 施策 + 審議会希望 2 施策 = 8 施策/全 80 施策〕の評価を予定しています。事務局選定施策の選定基準は、以下の①②のとおりです。
 - ①市が推進する重要性が高い施策や課題解決の緊急性の高い施策
 - ②指標や達成度の進捗が良くない施策や一次評価（市の内部評価）で評価が低い施策なお、審議会希望施策については、様式 1（二次評価希望施策調査票）により抽出します。また、各施策等への意見については、書面により意見照会します。
- 3) 各回の審議会資料及び議事録を市ホームページにおいて公表します。

3 スケジュール（案）

裏面のとおり。

【令和 8 年度弘前市総合計画審議会 開催スケジュール】

第 1 回	7 月 14 日（火）17:30～	市役所 市民防災館 3 階 防災会議室
	市長挨拶、諮問、令和 8 年度審議会の進め方説明、SDGs 未来都市の取組報告	
第 2 回	7 月 29 日（水）10:00～	市役所 市民防災館 3 階 防災会議室
	8 施策一次評価審議	
第 3 回	8 月 19 日（水）～8 月 26 日（水）	書面審議
	8 施策への意見に対する回答審議、二次評価案審議	
第 4 回	10 月 15 日（木）18:00～	市役所 市民防災館 3 階 防災会議室
	次期総合計画 基本構想案、計画体系の審議	
第 5 回	10 月 30 日（金）17:30～	市役所 市民防災館 3 階 防災会議室
	(仮)リーディングプロジェクト、分野別政策 ①学び ～ ④健康・医療 の審議	
第 6 回	11 月 4 日（水）15:00～	市役所 市民防災館 3 階 防災会議室
	分野別政策 ⑤福祉 ～ ⑩環境・エネルギー の審議	
第 7 回	11 月 13 日（金）15:00～	書面審議
	分野別政策 ⑪安全・安心 ～ ⑯市民協働 の審議	
第 8 回	12 月 9 日（水）17:30～	市役所 市民防災館 3 階 防災会議室
	第 4 回～第 7 回審議会でのいただいた意見等を踏まえた計画案の審議	
第 9 回	1 月 25 日（月）10:00～	市役所 市民防災館 3 階 防災会議室
	次期総合計画最終案の承認	

※ 1 月 29 日（金）13 時～、森 会長が審議結果を市長に答申する予定。

以 上

令和 8 年度次期弘前市総合計画策定方針

1 計画策定の背景と目的

平成 31（2019）年 3 月に策定した「弘前市総合計画」において、将来都市像を「みんなで創り みんなをつなぐ あずましいうりんご色のまち」と定め、その将来都市像の実現に向けたまちづくりを進めてきました。

しかし現在、加速度的な人口減少や、少子高齢化、自然災害の激甚化、物価高騰、そして DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展など、本市を取り巻く環境はこれまでになく激しく変化しています。

こうした変化や課題に的確に対応し、将来にわたり持続可能なまちづくりを着実に進めるためには、これまで以上に重点的かつ効率的な行政経営が不可欠です。

令和 8（2026）年度に現行計画が終了することを見据え、新たな指針として、次期弘前市総合計画を策定します。

2 策定の根拠

「弘前市協働によるまちづくり基本条例」に基づく策定義務、および「弘前市議会の議決すべき事件を定める条例」に基づき、基本構想の策定について議会の議決を経て策定するものです。

3 計画の構成と期間

現行計画の 3 層構造を継承し、令和 9（2027）年度から令和 16（2034）年度までの 8 年間で計画期間とします。

なお、基本計画における分野別政策およびロジックモデルは継承することとします。

（1）基本構想【議決事項】 ※修正する方向で検討中

長期的展望に立ち、将来都市像のほか、本市の普遍的な方向性や政策の方針等をわかりやすく、明確に定めます（期間：8 年間）。

（2）基本計画【市長決定事項】 ※基本方針、リーディングプロジェクトを中心に修正

基本構想で定めた将来都市像を実現するための具体的な施策などを示します。

社会情勢等の変化に柔軟に対応するため、前期（4 年）・後期（4 年）に分け、毎年見直しを実施します。

（3）実施計画【市長決定事項】 ※事業の追加、見直しにより修正

基本計画に示した施策に基づき具体的に実施する事業を示します。

期間は基本計画に合わせ、毎年見直しを実施します。

4 計画の名称

弘前市総合計画「弘前 X - V I S I O N（クロス・ビジョン）」とします。

5 策定にあたっての基本方針

(1) 社会経済情勢等に即した計画づくり

社会・経済情勢や、市民生活・財政状況、本市を取り巻く環境を十分に把握・分析し、現状や課題を的確に認識します。

(2) 市長の政治姿勢の具現化

「誰もが生きがいを持てる未来」「市民の暮らしと安心を守る」「A I・D Xによる変革」の3本の基本方針を踏まえた上で、これを実現する5つの戦略(※1)と4つの基本姿勢(※2)により公約を推進する視点を盛り込みます。

※1 弘前の「活力」を創出、教育と子育て環境の充実、生活の基盤をアップデート、安心のネットワークを構築、対話と連携で市政を再起動

※2 結集、挑戦、迅速、対話

(3) 現行計画の評価・総括の反映

現在の施策、事業の達成度や課題を踏まえながら、その結果を計画づくりに反映させます。

(4) 実効性とE B P Mの重視

限られた経営資源を「選択と集中」により有効活用し、客観的なデータに基づく政策立案を徹底します。また、部局横断的な連携により相乗効果を追求します。

(5) 市民の意見等の反映

高校生・大学生・市民ワークショップや、弘前子ども議会、各種団体等との意見交換、各種アンケートなど、様々な形で把握した市民の意見等を計画づくりに反映させます。

6 策定体制

(1) 総合計画審議会

学識経験者、公共的団体等の推薦を受けた者、公募による市民で構成され、市長から諮問された総合計画の素案について、各委員の持つ様々な視点・専門的知見等から意見をいただきます。

(2) 市議会

基本構想について、市議会の審議を経て議決いただくほか、基本構想・基本計画の策定過程において、情報提供及び説明を行います。

(3) 庁内検討組織

①総合計画策定会議

総合計画案の作成と、必要な連絡及び調整を行います。

②市政推進会議

総合計画案（基本計画、実施計画）を決定します。

(4) 市民参画

パブリックコメントを実施し、幅広い世代・属性の市民の方々から意見等をいただき

ます。

7 策定スケジュール

別添のとおり。

8 その他

市長公約の次期基本計画への反映については、7月に実施予定の「総合計画一次評価に係る市長ヒアリング」の場での市長指示事項等を踏まえ、9月に発表予定の令和9年度予算編成方針等において、別途各部に新規事業立案等を依頼する予定です。

なお、市長公約の推進に係る計画事業の見直し（新規・廃止等）について、令和9年度予算要求に先立ち事前に検討するようお願いします。

以 上

		5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
評価作業	庁内作業			各部にて一次評価 (成果・課題の検証、 公約推進を含む今後の 方向性等)				市長・副市長 ヒアリング (方向性等に ついて指示)																										
	総合計画 審議会							第1回	第2回		第3回																							
次期計画 策定作業	策定会議 (庁内会議)					第1回 ※策定方針 案を審議							第2回 ※骨子案を 審議									第3回 ※総計書を 経た案を 審議					第4回 ※最終案を 審議							
	庁内作業				案の作成① (指標の見直し、施策の組換え等)							案の作成② (新規事業の検討、予算要求ベースの反映)					案の作成③ (全体調製、予算査定結果の反映)																	
	予算要求【※】										予算要求						財務部査定／市長査定											予算 記者発表						
	市政推進 会議																					計画案 を報告						基本構 想案を 付議			総合計画案 (基本構想を 除く)を付議			
	総合計画 審議会														第4回	第5回	第6回	第7回			第8回					第9回	答申							
	パブコメ																						パブコメ											
	市議会																						全員 協議会①						全員 協議会②			総合計画 特別委員会 ※基本構想 を議決		
	職員研修					研修実施																												

【※】 予算要求のスケジュールについては、令和8年度予算編成スケジュールを基に仮置きしたものであり、詳細については今後、財政課から示されます。

令和7年度弘前市総合計画 一次評価

リーディングプロジェクト

- | | |
|------------|----------------|
| (1) ひとの健康 | ・・・・・・・・・・P. 2 |
| (2) まちの健康 | ・・・・・・・・・・P.10 |
| (3) みらいの健康 | ・・・・・・・・・・P.18 |

プロジェクト名 (1)ひとの健康(すべての市民が健康で長生きできるまちづくり)									
総合評価(ロジックモデル)									
インパクト		アウトカム		アウトプット		インプット			
目指す姿	総合評価	指標・成果	達成度・評価	総合評価	取組内容	達成度・評価	事業	評価	
すべての市民が健康で長生きできるまちづくり	○	【定量評価】 ・肥満傾向児の出現率 (小学校5年生) 初年度 10.4% 基準値 14.1% 実績値 15.2% 目標値 11.4%	△	○	<1 子どもたちの健康と運動の推進> ・子どもの頃からの各種健康教育や食育、運動に関する事業を強化するほか、親の健康意識の向上や子育て環境の整備を推進します。	◎	1) 授業で学ぼう！健康教育事業	◎	
		(中学校2年生) 初年度 9.0% 基準値 11.2% 実績値 11.8% 目標値 8.1%	△				2) 給食で学ぼう！食育スクール	◎	
		【定量評価】 メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合 初年度 30.9% 基準値 33.7% 実績値 33.2% 目標値 33.7%	◎				3) こどもの健康×SDGs プログラミング体験事業	○	
		【定量評価】 地域や職場で健康づくりに取り組む市民の割合 初年度 - 基準値 9.4% 実績値 8.5% 目標値 10.6%	△				4) 子ども医療費給付事業	◎	
			【定性評価】 ・子どもを対象としたベジチェック [®] 測定体験では、「楽しみながら野菜を多く食べることへの意識が高まっている」という声が聞かれました。 ・補聴器を装着した難聴高齢者から、「家族や友人との会話が円滑にできるようになった」との喜びの声が聞かれました。				○	5) 次世代の健康づくり推進事業	○
		【SDGsへの貢献の評価】 ①貢献した内容／貢献できなかった内容 ・規格外野菜の給食提供やベジチェック [®] の測定体験を通じて、子どもたちに野菜摂取の大切さを意識付けられました。(SDGsゴール3、4に関連) ・ベジチェック [®] を企業向けにも活用したことで、市民の健康意識向上のみならず企業の健康経営の機運醸成にもつながりました。(SDGsゴール3、9、17に関連) ・子どもへの食育、高齢者への運動教室や社会参加を促す取組などを通じて、全世代の健康と福祉、住み続けられる地域づくりに貢献できました。(SDGsゴール3、4、11に関連) ②関連するアイコン					○	6) 働き盛り世代への運動教室開催事業	○
			3 すべての人に健康と福祉を				4 質の高い教育をみんなに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	7) 働き盛り世代の健康アップ推進事業
		11 住み続けられるまちづくりを					17 パートナリシップで目標を達成しよう	8) 健康とまちのにぎわい創出事業	○
								9) がん検診受診率向上強化対策事業	○
		10) 胃がんリスク検診事業						○	
					11) 大腸がん検診推進事業	○			
					12) 20・30代健診	○			
					13) 糖尿病性腎症重症化予防事業	○			
					14) 弘前ヘルスアップル推進事業	○			
					15) 地域で学ぼう！食育講座いただきます	○			
					16) 食育健康推進事業	○			
					17) 健やか習慣応援事業	○			
					18) 岩木健康増進プロジェクト推進事業	○			
					19) 高齢者介護予防運動教室事業	○			
					20) 高齢者ふれあい居場所づくり事業	○			
					21) 高齢者補聴器購入費助成事業	◎			
					22) あと70g野菜を食べよう推進事業	○			

※総合評価、評価 ◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。

プロジェクト名		(1)ひとの健康(すべての市民が健康で長生きできるまちづくり)	
■定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえた総合評価			
一次評価	2024年度の総括	総合評価	成果
		◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。	＜1 子どもたちの健康と運動の推進＞ ・規格外野菜の給食提供校の拡大や、全市立小・中学校の全児童生徒を対象にベジチェック[®]の測定体験を実施したことで、野菜摂取の大切さを意識づけることができました。(SDGsゴール3、4に関連) ・子ども医療費の完全無償化の実施により、子育て世帯の経済的負担の軽減が図られました。(SDGsゴール1、3に関連) ＜2 働き盛り世代の健康と運動の推進＞ ・運動教室やQOL健診を通じて企業の従業員やりんご生産者の健康啓発を行うとともに、広く市民の健康意識の向上と行動変容を図るため、中心市街地での健康イベントの開催や健康アプリの活用を促進しました。(SDGsゴール3、9、17に関連) ＜3 高齢者を含むすべての世代の健康長寿の推進＞ ・野菜キットを活用した子どもに対するしよくいく(植育・食育)やベジチェック[®]の活用を通じて、子どもから高齢者まですべての世代の野菜摂取量の増加や健康意識の向上を図ることができました。(SDGsゴール3、11、17に関連) ・高齢難聴者に対する補聴器購入費助成については、想定100件を上回る140件の申請があり、高齢者の認知症や介護の予防、ひいては住み慣れた地域での自立した生活と健康寿命の延伸に寄与しました。(SDGsゴール3、11に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。
			課題
			＜1 子どもたちの健康と運動の推進＞ ・指標「肥満傾向児の出現率」は小学5年生・中学2年生ともに悪化しているため、引き続き、食生活や運動の大切さを強く意識づける取組が必要です。(SDGsゴール3、4に関連) ＜2 働き盛り世代の健康と運動の推進＞ ・指標「メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合」は目標を達成しているものの増加傾向にあります。また、合併症リスクの高い高血糖者や20代・30代を対象とした健診では、肥満や高血圧の項目で数値の悪化が見られることから、引き続き、生活習慣病の発症・重症化予防のための支援を行う必要があります。(SDGsゴール3に関連) ＜3 高齢者を含むすべての世代の健康長寿の推進＞ ・「肥満傾向児の出現率」は増加傾向にあることから、各家庭の食生活の鍵を握る保護者も巻き込んだ子どもの頃からの食育・健康づくりを行う必要があります。また、高齢者ふれあいの居場所については、活動継続が困難で廃止となる居場所もあることから、活動継続や新規開設に向け、生活支援コーディネーター等と連携した地域一体での高齢者福祉の充実を図る必要があります。(SDGsゴール11に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。
			＜1 子どもたちの健康と運動の推進＞ ・栄養教諭等による食の指導は、実施希望校が増加傾向にあるため、より多くの児童生徒が指導を受けられるよう、取組方法や内容を検討するとともに、児童生徒の給食への関心や、給食の大切さを高められるような取組を検討していきます。(SDGsゴール3に関連) ＜2 働き盛り世代の健康と運動の推進＞ ・働き盛り世代のメタボリックシンドロームの予防・改善を目的に、QOL健診で健康意識が高まった受診者に対し、食事や運動の健康プログラムを併せて提供します。また、がん検診で「要精密検査」と判定された方の精密検査の初回費用を助成し、がんの早期発見・早期治療を促進します。(SDGsゴール3、9、17に関連) ＜3 高齢者を含むすべての世代の健康長寿の推進＞ ・ベジチェック[®]のほか、高齢者ふれあいの居場所の活動継続や新規開設、高齢者補聴器購入費助成などを通じて、全世代の健康長寿を推進していきます。(SDGsゴール3、11、17に関連) ※社会・経済状況の変化やSDGsへの貢献も踏まえ、後期基本計画3年目(今年度)に、重点的に取り組む内容について記入してください。
＜1 子どもたちの健康と運動の推進＞ ・生涯にわたって生活習慣病予防や心身の健康を保つため、子どもの頃から食や健康に関する正しい知識を身に付け、実践できる取組を進めます。(SDGsゴール3に関連) ＜2 働き盛り世代の健康と運動の推進＞ ・QOL健診と健康プログラムを併せて提供する取組を、持続可能な事業スキームにより継続的に実施することで、市民の健康寿命の延伸や社会保障費の削減、ヘルスケア産業の雇用創出へとつなげていきます。(SDGsゴール3、9、17に関連) ＜3 高齢者を含むすべての世代の健康長寿の推進＞ ・働き盛り世代である親を巻き込んだ取組の中で、家族全員の野菜摂取量拡大を図るほか、高齢者のふれあい居場所づくりや介護予防運動教室の開催、補聴器購入費の助成などを通じて、高齢者の住み慣れた地域での自立した生活の実現と健康寿命の延伸に向け、地域一体での福祉の充実にも努めていきます。(SDGsゴール3、11、17に関連) ※SDGsへの貢献も踏まえ、より成果をもたらすための、または、課題を解決するための、後期基本計画最終年度(2026年度)における取組の方向性について記入してください。			
二次評価			

プロジェクト名 (1)ひとの健康(すべての市民が健康で長生きできるまちづくり)

アウトカム

「対象者(受益者)」

・地域住民、子どもと保護者、市内事業者(従業員とその家族)、高齢者及び障がい者とその家族

施策により「期待する成果」は何か

・子どもの頃からの健康教育や食育、運動を通じ、日頃から子どもと親がともに健康について意識するようになることで、健康寿命の底上げが図られます。
・健康無関心層が多い働き盛り世代の意識改革や行動変容を実現することで、生活習慣病予防や心身の健康保持につながり、健康寿命の延伸が図られます。
・子どもから高齢者まで地域一体で健康意識が高まるとともに、高齢者が地域で元気に過ごし、自立した日常生活を継続して送ることができるようになり、地域の活性化が図られます。

■定性評価

評価内容

＜1 子どもたちの健康と運動の推進＞
・全市立小・中学校の全児童生徒を対象としたベジチェック[®]測定体験では、子どもたちが楽しみながら測定していたという声や、野菜を多く食べることへの意識が高まっているという声が多く聞かれました。

＜2 働き盛り世代の健康と運動の推進＞
・働き盛り世代の人は、仕事を続けるために健康であることが、健康づくりに取組む動機付けとなるため、各企業において健康づくりを大きな柱として取り組む必要があるとの意見が出されています。

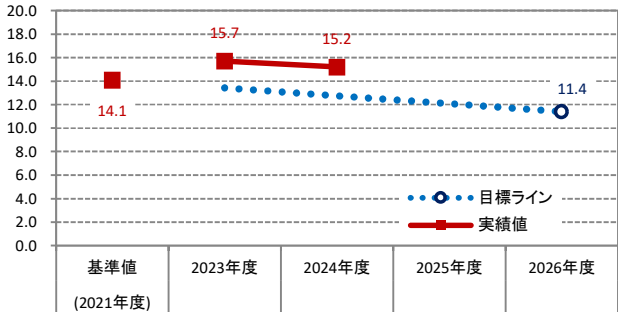
＜3 高齢者を含むすべての世代の健康長寿の推進＞
・高齢者介護予防運動教室の参加者からは、「肩や腰の痛みが軽減した」「身体が軽くなった」などの声がありました。また、補聴器を装着してみた難聴高齢者からは、「家族や友人との会話が円滑にできるようになった」との喜びの声が聞かれました。

○

※評価 ◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。

■定量評価(プロジェクト指標①-1)

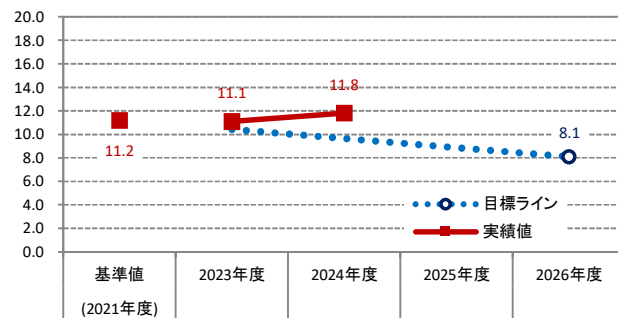
指標名	計画初年度	基準値	実績値一覧				目標値		達成度
	2019年度	2021年度	2023年度 (2023年度)	2024年度 (2024年度)	2025年度 (2025年度)	2026年度 (2026年度)	2026年度	(方向)	
①肥満傾向児の出現率 (小学校5年生)(%)	10.4	14.1	15.7	15.2			11.4	↓	△
	—	—	△	△			—		



※評価 ◎:目標を上回った。
○:目標には達しなかったが改善した。
△:基準値より悪化した。

■定量評価(プロジェクト指標①-2)

指標名	計画初年度	基準値	実績値一覧				目標値		達成度
	2019年度	2021年度	2023年度 (2023年度)	2024年度 (2024年度)	2025年度 (2025年度)	2026年度 (2026年度)	2026年度	(方向)	
②肥満傾向児の出現率 (中学校2年生)(%)	9.0	11.2	11.1	11.8			8.1	↓	△
	—	—	○	△			—		



※評価 ◎:目標を上回った。
○:目標には達しなかったが改善した。
△:基準値より悪化した。

プロジェクト名 (1)ひとの健康(すべての市民が健康で長生きできるまちづくり)									
■定量評価(プロジェクト指標②)									
指標名	計画初年度	基準値	実績値一覧				目標値		達成度
	2019年度	2021年度	2023年度 (2022年度)	2024年度 (2023年度)	2025年度 (2024年度)	2026年度 (2025年度)	2026年度	(方向)	
メタボリックシンドローム 該当者・予備群の割合 (%)	30.9	33.7	32.6	33.2			33.7	↓	◎
	—	—	◎	◎			—		
			※評価 ◎: 目標を上回った。 ○: 目標には達しなかったが改善した。 △: 基準値より悪化した。						
■定量評価(プロジェクト指標③)									
指標名	計画初年度	基準値	実績値一覧				目標値		達成度
	2019年度	2022年度	2023年度 (2023年度)	2024年度 (2024年度)	2025年度 (2025年度)	2026年度 (2026年度)	2026年度	(方向)	
地域や職場で健康づくり に取り組む市民の割合 (%)	—	9.4	8.7	8.5			10.6	↑	△
	—	—	△	△			—		
			※評価 ◎: 目標を上回った。 ○: 目標には達しなかったが改善した。 △: 基準値より悪化した。						
■SDGsへの貢献の評価									
貢献した内容／貢献できなかった内容					関連するアイコン			評価	
<1 子どもたちの健康と運動の推進> ・規格外野菜の給食提供やベジチェック[®]の測定体験を通じて、子どもたちに野菜摂取の大切さを意識付けることができました。(SDGsゴール3、4に関連) <2 働き盛り世代の健康と運動の推進> ・ベジチェック[®]を企業向けにも活用したことで、市民の健康意識向上のみならず企業の健康経営の機運醸成にもつながりました。(SDGsゴール3、9、17に関連) <3 高齢者を含むすべての世代の健康長寿の推進> ・子どもへの食育、高齢者への運動教室や社会参加を促す取組などを通じて、全世代の健康と福祉、住み続けられる地域づくりに貢献できました。(SDGsゴール3、4、11)								○	
※評価 ◎: 大いに評価できる。 ○: 概ね評価できる。 △: 課題がある。									

プロジェクト名 (1)ひとの健康(すべての市民が健康で長生きできるまちづくり)

アウトプット インプット

No	事業名	インプット				アウトプット		
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度の総括	
プロジェクトを構成する先導的な計画事業	① 授業で学ぼう！健康教育事業 (教育委員会 学務健康課)	予算額	2,608	4,274	4,274	4,274	活動結果 ・2024年度から全市立小・中学校の全児童・生徒を対象に実施した「ベジチェック [®] 」の測定体験では、子どもたちが楽しそうに参加していたという意見が多く寄せられました。 ・児童生徒がより健康に対する正しい知識を習得できるよう「健康教育コアカリキュラム」の取組内容を見直しました。	評価 ◎
		決算額	4,011	3,681				
		特定財源	1,210	1,210				
		一般財源	2,801	2,471				
	② 給食で学ぼう！食育スクール (教育委員会 学務健康課)	予算額	193	200	200	200	活動結果 ・食に関する指導の受講人数は2023年度から602人増加の9,217人となりました。 ・規格外野菜を使用した給食は、2023年度に実施した常盤野小中学校及び東部給食センターだけでなく、西部給食センターでも実施することができました。	評価 ◎
		決算額	193	200				
		特定財源	0	0				
		一般財源	193	200				
	③ こどもの健康×SDGs プログラミング体験事業 (企画部 企画課)	予算額	100	100	300	300	活動結果 ・親子ワークショップには7組14名の親子が参加し、多くの参加者から「野菜を食べることの大切さや、バランスの良い食事の大切さを知ることができた」と好評を得ました。	評価 ○
		決算額	74	13				
		特定財源	0	0				
		一般財源	74	13				
	④ 子ども医療費給付事業 (健康こども部 こども家庭課)	予算額	500,879	607,000	593,590	573,973	活動結果 ・18歳に達した日の属する年度末日までの子どもの、通院・入院に係る医療費(保険診療分)の自己負担分を給付したことで、子育て世帯の経済的負担が軽減されました。	評価 ◎
		決算額	547,799	591,223				
		特定財源	89,181	77,971				
		一般財源	458,618	513,252	0	0		
	⑤ 次世代の健康づくり推進事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	1,160	1,218	741	741	活動結果 ・幼児健診時の生活習慣アンケートにより、子どもの生活習慣状況を把握しました。 ・動画の放映、親子体操食育教室等の実施、幼児健診時の肥満指導と継続支援により、食習慣と生活習慣確立につなげました。	評価 ○
		決算額	698	638				
		特定財源	0	0				
		一般財源	698	638	0	0		
	⑥ 働き盛り世代への運動教室開催事業 (健康こども部 スポーツ振興課)	予算額	900	900	600	600	活動結果 ・企業を訪問して運動教室を実施(7社で計12回、延べ191人参加)することで働き盛り世代へ運動する機会を提供できました。また、運動教室に併せて簡易型QOL健診(計3回)も実施し、楽しみながら自身の健康状態をチェックできる機会を創出しました。	評価 ○
		決算額	600	600				
		特定財源	300	300				
		一般財源	300	300	0	0		
	⑦ 働き盛り世代の健康アップ推進事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	3,116	3,116	0	0	活動結果 ・助成金交付件数は、募集期間の延長や健康経営認証事業所へ周知を行ったことで、4件となりました。申請数は年々減少しており、需要に対する一定の効果があつたと判断し、補助事業を2024年度で終了しました。	評価 ○
		決算額	1,013	721				
		特定財源	1,013	360				
		一般財源	0	361	0	0		

プロジェクト名		(1)ひとの健康(すべての市民が健康で長生きできるまちづくり)									
No	事業名	インプット				アウトプット					
						2024年度の総括					
		2023年度	2024年度	2025年度	2026年度						
プロジェクトを構成する先導的な計画事業	⑧健康とまちのにぎわい創出事業 (企画部 企画課)	予算額	38,957	37,458	0	0	活動結果	・QOL健診の普及展開において、健康プログラムを併せて提供し生活習慣改善を図る等、働き盛り世代へアプローチすることができました。中心市街地における健康イベントの実施や健康アプリの活用などにより、賑わい創出が図られました。	評価	○	
		決算額	38,957	37,458							
		特定財源	19,478	18,729							
		一般財源	19,479	18,729	0	0					
	⑨がん検診受診率向上強化対策事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	4,643	2,613	9,550	9,550	活動結果	・WEB予約サービスの予約件数が昨年度に比べて110件増加しました。 ・市のSNSを用いて、ナッジ理論を取り入れたがん検診PR記事や、集団検診の受け方の記事を掲載することで、インターネットを活用した受診勧奨を行いました。	評価	○	
		決算額	2,271	3,352							
		特定財源	2,271	3,352							
		一般財源	0	0							
	⑩胃がんリスク検診事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	5,409	5,172	4,902	4,902	活動結果	・検診の対象者について、40歳に加え、2023年度から42歳の未受診者も対象とした結果、前年度よりも受診者数が増加しました。42歳の対象者については、111人が受診し、将来的な胃がんの発症予防につなげることができたことから、機会拡大の効果が現れたと考えられます。	評価	○	
		決算額	3,054	2,990							
		特定財源	0	0							
		一般財源	3,054	2,990							
	⑪大腸がん検診推進事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	1,214	1,214	1,352	1,352	活動結果	・2021(R3)年度から採便キットと問診票を送付しており、対象者は、予約をしなくても検体を提出するだけで、大腸がん検診が受診できるようになっています。これにより、従来の無料クーポン券を送付する方法よりも受診者数は増加し、2024(R6)年度もおおむね受診率を維持できています。	評価	○	
		決算額	945	964							
		特定財源	0	0							
		一般財源	945	964							
	⑫20・30代健診 (健康こども部 健康増進課)	予算額	10,442	10,171	9,480	9,480	活動結果	・生活習慣病のリスクに応じて、保健指導を実施し、血糖や腎機能に関する項目は改善傾向にあります。しかし、血圧に関する項目は悪化傾向にあり、男性の肥満者の割合も高い傾向が続いています。	評価	○	
		決算額	9,399	8,500							
		特定財源	0	0							
		一般財源	9,399	8,500							
	⑬糖尿病性腎症重症化予防事業 (健康こども部 国保年金課)	予算額	5,070	10,713	5,862	5,862	活動結果	・特定健診結果で本事業の対象となった方の約5割に対して、受診勧奨、保健指導が実施できており、その結果として、糖尿病未治療・治療中断者の割合は横ばいで推移しています。 ・合併症リスクの高い高血糖者は減少傾向にあります。	評価	○	
		決算額	3,356	3,970							
		特定財源	0	0							
		一般財源	3,356	3,970							
	⑭弘前ヘルスアップル推進事業 (農林部 りんご課)	予算額	10,590	10,590	10,190	0	活動結果	・QOL健診を実施し、りんご生産者の健康啓発を行ったほか、非破壊による機能性成分の計測手法を検討し、消費者の健康に寄与するりんごの供給拡大に向けて取り組みました。	評価	○	
		決算額	8,045	8,544							
		特定財源	3,940	4,162							
		一般財源	4,105	4,382	0	0					

プロジェクト名 (1)ひとの健康(すべての市民が健康で長生きできるまちづくり)										
No	事業名	インプット				アウトプット				
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度の総括			
3 高齢者を含むすべての世代の健康長寿の推進プロジェクトを構成する先導的な計画事業	⑮ 地域で学ぼう！食育講座いただきます (教育委員会 中央公民館)	予算額	525	525	525	525	活動結果	・食育講座を中央公民館及び12区域で計18回実施したことで、延べ312人が食への興味・関心を高めることができました。	評価	○
		決算額	183	388						
		特定財源	0	0						
		一般財源	183	388						
	⑯ 食育健康推進事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	1,146	1,117	983	1,117	活動結果	・幼児とその保護者を対象に、りんご食育健康講座を開催し、果物や野菜摂取の必要性を普及啓発できました。 ・健康都市弘前「幼児期の食育研修会」を開催し、保育施設等との情報共有及び連携強化を図りました。	評価	○
		決算額	1,045	884						
		特定財源	0	0						
		一般財源	1,045	884						
	⑰ 健やか習慣応援事業	予算額	1,032	1,237	1,248	1,248	活動結果	・地域での健康講座を107回開催し、延べ2,128人が参加し、望ましい生活習慣の定着につなげる普及啓発活動を実施しました。 ・健やか習慣応援キャンペーンでは「初めて家庭血圧測定を継続して行った」という方もおり、参加者の生活習慣の見直しにつながりました。	評価	○
		決算額	439	1,112						
		特定財源		613						
		一般財源	439	499	0	0				
	⑱ 岩木健康増進プロジェクト推進事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	842	849	855	855	活動結果	・対象者を岩木地区以外の市民にも拡充するとともに、岩木地区の20～50歳代の方への個別通知や、防災無線による受診勧奨を行い、受診者数は1,162人と、前年より226人増加しました。	評価	○
		決算額	464	418						
		特定財源	0	0						
		一般財源	464	418	0	0				
	⑲ 高齢者介護予防運動教室事業 (福祉部 介護福祉課)	予算額	50,653	49,197	52,605	56,505	活動結果	・高齢者健康トレーニング教室は、ヒロロスクエアでの開催回数が減少したため2023年度より全体利用者数が減少しました。 ・パワリハ運動教室は年々利用者が増加しており、より多くの方に利用いただけるようルールを見直しました。	評価	○
		決算額	51,624	48,506						
		特定財源	39,570	37,350						
		一般財源	11,874	11,156						
	⑳ 高齢者ふれあい居場所づくり事業 (福祉部 介護福祉課)	予算額	1,450	1,222	1,128	1,322	活動結果	・居場所登録数40か所を目標としていましたが、38か所の登録にとどまりました。	評価	○
		決算額	570	651						
		特定財源	438	501						
		一般財源	132	150						
	㉑ 高齢者補聴器購入費助成事業	予算額		3,000	3,000	3,000	活動結果	・想定100件を上回る140件の申請があり、実際に補聴器を装着された方からは「家族や友人との会話が円滑にできるようになった」などの喜びの声が聞かれました。	評価	◎
		決算額		4,050						
		特定財源		0						
		一般財源		4,050						
㉒ あと70g野菜を食べよう推進事業	予算額		2,194	2,968	2,968	活動結果	・市内企業を対象にベジチェック [®] の測定値を競うイベントを実施したところ、期間中の測定値が平均1.2ポイント高くなり、市民の健康意識の向上に寄与しました。	評価	○	
	決算額		2,105							
	特定財源		1,683							
	一般財源		422							
計画事業合計 (計画事業の総合評価)		予算額	640,929	754,080	704,353	678,774				
		決算額	674,740	720,968	0	0				
		特定財源	157,401	146,231	0	0				
		一般財源	517,598	575,236	0	0				

※評価 ◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。

プロジェクト名 (2) まちの健康(快適なくらしを送れるまちづくり)

総合評価(ロジックモデル)

インパクト		アウトカム		アウトプット		インプット			
目指す姿	総合評価	指標・成果	達成度・評価	総合評価	取組内容	達成度・評価	事業	評価	
快適なくらしを送れるまちづくり	○	【定量評価】 市民(納税義務者)一人当たりの課税対象所得 初年度 2,783千円 基準値 2,819千円 <u>実績値 2,958千円</u> 目標値 3,000千円	◎	○	<1 足腰の強い産業の育成> ・日本一のりんご産地の維持・発展や農地の円滑な継承、健康医療関連産業の誘致、地域資源を活かした観光振興などに取り組みます。	○	1) りんご園等改植事業負担金	○	
		【定量評価】 中心市街地の通行量 初年度 17,472人 基準値 10,918人 <u>実績値 11,589人</u> 目標値 17,472人	○				2) 後継者不在園地継承等円滑化事業	○	
							3) 企業立地推進事業	○	
							4) スタートアップ創出支援事業	◎	
							5) 神戸プロモーション事業	◎	
		【定量評価】 弘前市は住みよいまちだと思う市民の割合 初年度 58.0% 基準値 63.3% <u>実績値 53.6%</u> 目標値 67.3%	△	△	<2 中心市街地の機能強化> ・中心市街地における健康・医療、福祉、子育てなどの機能強化、まちなかの賑わい創出などに取り組みます。	△	6) 健康とまちなかにぎわい創出事業	○	
		【定性評価】 ・農業者からは、「離農する際に、園地継承円滑化システムを活用したことにより、りんごを伐採せずに担い手に継承することができた」、「新規就農時に経済寿命が残るりんご園地を取得することができ、収入確保につながった」との声をいただきました。	◎				7) 健康づくりのまちなか拠点整備事業	◎	
							8) 空き店舗対策事業	◎	
							9) 学びを応援！まちなかにぎわい創出実証事業	○	
							10) 歩きたくなるまちなか形成事業	○	
		【SDGsへの貢献の評価】 ①貢献した内容／貢献できなかった内容 ・園地継承円滑化システムにより、担い手へ農地の集約・集積が図られました。(ゴール2、8) ・健康づくりのまちなか拠点の整備及び健康とまちなかにぎわい創出事業を着実に促進することで、あらゆる年齢の人々の健康づくりにつながりました。(ゴール3、9) ・ゼロカーボンシティひろさき推進協議会の設立準備会を開催しました。(ゴール13) ②関連するアイコン	○	○	<3 住みよいまちづくりの推進> ・市民との協働による雪対策、渋滞対策、ごみの減量化・資源化による循環型社会の推進、安全・安心な地域づくりなどに取り組みます。	○	11) 津軽地域ごみ処理広域化協議会負担金	○	
		 2 飢餓をゼロに					 8 働きがいも経済成長も	12) 地域エネルギープロジェクト事業化支援事業	○
								13) 信号機のない横断歩道歩行者優先啓発事業	○
		 3 すべての人に健康と福祉を	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	 13 気候変動に具体的な対策を	14) 犯罪被害者等支援事業	○			
					15) 防犯カメラ整備管理事業	◎			
					16) 除排雪事業	○			
					17) まちなかお出かけパス事業	○			
					18) 渋滞対策事業	○			

※総合評価、評価 ◎: 大いに評価できる。 ○: 概ね評価できる。 △: 課題がある。

プロジェクト名		(2)まちの健康(快適な暮らしを送れるまちづくり)	
■ 定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえた総合評価			
2024年度の総括	総合評価	成果	
	○	<1 足腰の強い産業の育成> ・地域経済への波及効果が高い革新的な技術やビジネスモデルに基づいた事業に取り組むスタートアップの創出・拡大を図るため、新たにスタートアップ創出支援事業費補助金により、商品開発、販路拡大に取り組む2事業者を支援しました。(SDGsゴール8・9に関連) ・病害虫の発生源となるリンゴ放任園対策として、2024年5月に「放任園ゼロ宣言」を行い、2026年度までの3年間で放任園を解消することを目標としました。2024年度の解消目標面積を、2023年度の解消面積の10倍となる15haに設定し、予算を増額し目標達成に向けて鋭意取り組んだ結果、2024年度は14.5haの放任園が解消されました。(SDGsゴール2に関連) <2 中心市街地の機能強化> ・空き店舗対策事業費補助金の予算を700万円増額し、中心市街地の空き店舗活用を支援した結果、新規開業が例年より多い8件(2023年度は5件)あり、空き店舗率は2023年度の15.3%から、2024年度は13%となり2.3ポイント改善しました。(SDGsゴール8に関連) <3 住みよいまちづくりの推進> ・渋滞対策事業により、茂森新寺町線(通称:加藤坂交差点)の対策が完了したことで渋滞緩和が図られています。(SDGsゴール9、11に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。	
		課題	
		<1 足腰の強い産業の育成> ・りんご産業においては、人口減少や高齢化により担い手や補助作業員が減少していることから、今後も日本一のりんご産地であり続けるため、生産量の確保や農地の有効活用をこれまで以上に推進していく必要があります。(SDGsゴール2、8に関連) <2 中心市街地の機能強化> ・空き店舗率は15.3%から13%となり2.3ポイント改善したものの、空き店舗対策に引き続き取り組む必要があります。(SDGsゴール8に関連) <3 住みよいまちづくりの推進> ・再生可能エネルギーの導入・地産地消に向けて、地域事業者にとって継続性・事業性が確保されており、地域実装できる事業モデルを構築する必要があります。(SDGsゴール13、17に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。	
◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。			
2025年度に重点的に取り組む内容	<1 足腰の強い産業の育成> ・日本一のりんご産地を持続可能なものとするため、引き続き県などと連携しながら、重点的かつ強力で放任園の解消を進め、2025年度の解消目標面積である28haの達成を目指します。(SDGsゴール2に関連) ・産業用地の整備促進のため、2024年度に策定した企業立地戦略プランの内容を踏まえ、適地選定調査と企業ニーズアンケート調査を実施します。(SDGsゴール8に関連) <2 中心市街地の機能強化> ・新たな空き店舗の発生を抑制するため、関係機関等との連携を強化するほか、空き店舗対策事業費補助金の予算を500万円増額し、空き店舗対策に取り組めます。(SDGsゴール8に関連) ・中心市街地活性化のため、市民参加型のまちづくり会議「弘前まちなか未来会議」と、ワークショップ型の「まちなか未来ラボ」設置により市民等の意見・ニーズを聴取し、課題や取り組むべき事業を整理します。(SDGsゴール8に関連) <3 住みよいまちづくりの推進> ・建設業就業者の高齢化や若者の建設業離れにより、雪対策の担い手の減少が懸念されていることから、中長期的な雪対策の担い手確保を目的として、除雪オペレーターに必要な資格取得等に要する経費の一部補助や、若手除雪オペレーターを対象とした講習会を実施します。(SDGsゴール11に関連) ・環境省の補助金を活用して、エネルギー事業で生み出した利益を再生可能エネルギー事業に再投資するほか、利益をその他の地域課題解決に資する事業に還元する、持続的な仕組み「シュタットベルケ」の構築を目指します(SDGsゴール7、8、9に関連) ※社会・経済状況の変化やSDGsへの貢献も踏まえ、後期基本計画3年目(今年度)に、重点的に取り組む内容について記入してください。		
	<1 足腰の強い産業の育成> ・新たな産業用地の整備に向けて、造成計画等を位置づけた基本計画を策定するほか、2027年度に国の補助金を活用するための申請手続きを進めていきます。(SDGsゴール8に関連) <2 中心市街地の機能強化> ・第3期弘前市中心市街地活性化基本計画について、2026年度内の認定に向けて着実に取組を進めていきます。(SDGsゴール8に関連) <3 住みよいまちづくりの推進> ・弘前大学周辺に設置している防犯カメラ20台について、弘前大学の学生、周辺の町会との協働により設置箇所を再検討し、更新します。また、東地区モデル事業を他地区にも普及・発展することを見据え、取組の効果を検証するほか、モデル事業終了に向けて、地域との協働により東地区での取組を再検討します。(SDGsゴール5、16に関連) ・渋滞対策事業は未対策箇所について用地買収が必要となり新規の事業化が難しい状況のため、県道の渋滞緩和に向けて関係機関への要望を行っていきます。(SDGsゴール9、11に関連) ※SDGsへの貢献も踏まえ、より成果をもたらすための、または、課題を解決するための、後期基本計画最終年度(2026年度)における取組の方向性について記入してください。		
2026年度の方角性			
二次評価			

プロジェクト名 (2) まちの健康(快適なくらしを送れるまちづくり)

アウトカム

「対象者(受益者)」

・りんご生産者、農業者、新規就農者、誘致企業、地元企業、当市への進出を検討している企業、観光関連事業者、住民全般、事業者全般、学生、高齢者

施策により「期待する成果」は何か

・基幹産業である農業では、日本一のりんごの生産量が確保され、農地の有効利用が進むほか、健康医療関連産業*の立地などにより、足腰の強い産業が育成されています。
・中心市街地*の担う機能が充実し、多様な目的を持った来街者が増加することで賑わいが創出されるなど、経済循環が活性化しています。
・効果的な除排雪による快適な雪国生活、渋滞の緩和などにより、一年を通して安心して暮らせる生活環境が整備されるなど、住みよいまちづくりが推進されています。

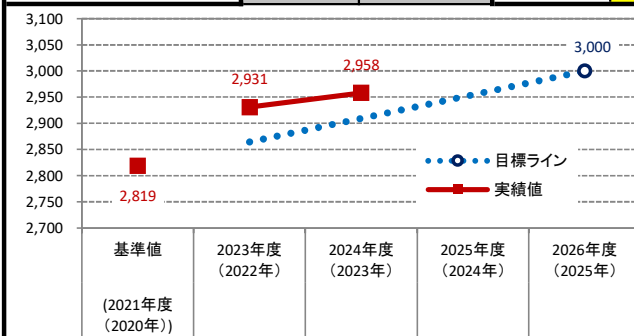
■定性評価

評価内容	評価
<1 足腰の強い産業の育成> ・農業者からは、「離農する際に、園地継承円滑化システムを活用したことにより、りんごを伐採せずに担い手に継承することができた」、「新規就農時に経済寿命が残るりんご園地を取得することができ、収入確保につながった」との声をいただきました。 <2 中心市街地の機能強化> ・「まちの未来スクール」参加者から、日常では関わりのない貴重な話を聞いて起業にあたって必要なモノコトを学び、自分がやりたいことへの考えもさらに深まったとの声をいただきました。 <3 住みよいまちづくりの推進> ・「産学官民金が会員となるゼロカーボンシティひろさき推進協議会が設立されることで、市と民間事業者との協働が進むことを期待している」との声をいただきました。	○

※評価 ◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。

■定量評価(プロジェクト指標①)

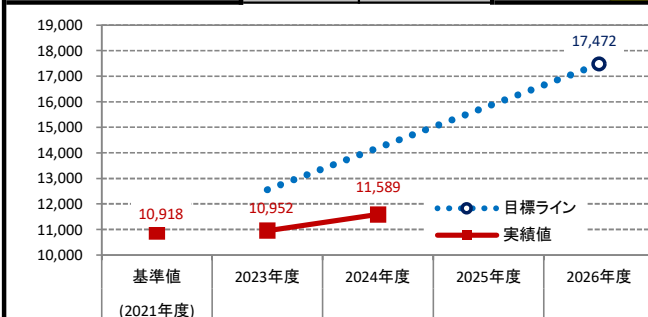
指標名	計画初年度	基準値	実績値一覧				目標値		達成度
	2019年度 (2019年)	2021年度 (2020年)	2023年度 (2022年)	2024年度 (2023年)	2025年度 (2024年)	2026年度 (2025年)	2026年度 (2025年)	(方向)	
市民(納税義務者)一人当たりの課税対象所得(千円)	2,783	2,819	2,931	2,958			3,000	↑	◎
	—	—	◎	◎			—		



※評価 ◎:目標を上回った。
○:目標には達しなかったが改善した。
△:基準値より悪化した。

■定量評価(プロジェクト指標②)

指標名	計画初年度	基準値	実績値一覧				目標値		達成度
	2019年度	2021年度	2023年度 (2023年度)	2024年度 (2024年度)	2025年度 (2025年度)	2026年度 (2026年度)	2026年度	(方向)	
中心市街地の通行量(人)	17,472	10,918	10,952	11,589			17,472	↑	○
	—	—	○	○			—		



※評価 ◎:目標を上回った。
○:目標には達しなかったが改善した。
△:基準値より悪化した。

プロジェクト名 (2) まちの健康(快適なくらしを送れるまちづくり)									
■ 定量評価(プロジェクト指標③)									
指標名	計画初年度	基準値	実績値一覧				目標値		達成度
	2019年度	2021年度	2023年度 (2023年度)	2024年度 (2024年度)	2025年度 (2025年度)	2026年度 (2026年度)	2026年度	(方向)	
弘前市は住みよいまちだ と思う市民の割合(%)	58.0	63.3	63.5	53.6			67.3	↑	△
	—	—	○	△			—		
68.0 66.0 64.0 62.0 60.0 58.0 56.0 54.0 52.0 基準値 (2021年度) 2023年度 2024年度 2025年度 2026年度 63.3 63.5 53.6 67.3 実績値 目標ライン ※評価 ◎: 目標を上回った。 ○: 目標には達しなかったが改善した。 △: 基準値より悪化した。									
■ SDGsへの貢献の評価									
貢献した内容／貢献できなかった内容					関連するアイコン			評価	
<1 足腰の強い産業の育成> ・園地継承円滑化システムにより、担い手へ農地の集約・集積が図られました。(SDGsゴール2、8に関連) <2 中心市街地の機能強化> ・健康づくりのまちなか拠点の整備及び健康とまちのにぎわい創出事業を着実に促進することで、あらゆる年齢の人々の健康づくりにつながりました。(SDGsゴール3、9に関連) <3 住みよいまちづくりの推進> ・ゼロカーボンシティひろさき推進協議会の設立準備会を開催しました。(SDGsゴール13に関連)。					2 健康を こほす 8 働きがいも 経済成長も 3 すべての人に 健康と福祉を 9 産業と技術革新の 基盤をつくらう 13 気候変動に 具体的な対策を			○	
※評価 ◎: 大いに評価できる。 ○: 概ね評価できる。 △: 課題がある。									

プロジェクト名 (2) まちの健康(快適な暮らしを送れるまちづくり)

アウトプット インプット

No	事業名	インプット				アウトプット		
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度の総括	
1 足腰の強い産業の育成 プロジェクトを構成する先導的な計画事業	① りんご園等改植事業負担金 (農林部 りんご課)	予算額	22,000	22,000	22,000	22,000	活動結果 ・2023年度と比較して、桃やぶどうなどの特産果樹の植栽面積が3割増えました。 ・果樹複合経営化が推進され、農業経営の安定化に寄与しました。	評価 ○
		決算額	22,000	22,000				
		特定財源	0	0				
		一般財源	22,000	22,000				
	② 後継者不在園地継承等円滑化事業 (農林部 農政課)	予算額	8,752	11,000	2,000	0	活動結果 ・園地(農地)のさらなる継承を図るため、果樹の新植に適した保全管理畑の情報公開や、規模を拡大したい農業者の情報公開に向けた準備を進め、「園地継承円滑化システム」の更なる利便性向上に取り組みました。	評価 ○
		決算額	11,092	9,440				
		特定財源	0	0				
		一般財源	11,092	9,440				
	③ 企業立地推進事業 (商工部 産業育成課)	予算額	62,067	59,916	31,319	31,319	活動結果 ・継続的な誘致活動、きめ細かな立地サポートにより、2件の誘致認定につながりました。 ・企業立地戦略プランを策定し、今後の取組方針を明確化しました。	評価 ○
		決算額	15,032	18,014				
		特定財源	0	0				
		一般財源	15,032	18,014				
	④ スタートアップ創出支援事業 (商工部 産業育成課)	予算額		2,000	2,000	2,000	活動結果 ・スタートアップ創出支援事業費補助金により、革新的な技術やビジネスモデルに基づいた商品開発や販路拡大に取り組む、2事業者を支援しました。	評価 ◎
		決算額		2,000				
		特定財源		0				
		一般財源		2,000				
	⑤ 神戸プロモーション事業 (観光部 国際広域観光課)	予算額	9,382	9,382	9,690	9,382	活動結果 ・弘前ねぶたの展示・練り歩きや、物産販売等を行う「弘前ねぶたin神戸2024」に約49,000人(推計)を集客し、当市の魅力をPRしました。 ・当該イベントの実施を契機に、神戸市の若手クリエイターがねぶたを制作し、弘前ねぶたまつりの合同運行に参加するなど、都市間交流が深まりました。	評価 ◎
		決算額	8,949	8,964				
		特定財源	0	0				
		一般財源	8,949	8,964				
2 中心市街地の機能強化	⑥ 健康とまちのにぎわい創出事業 (企画部 企画課)	予算額	38,957	37,458	0	0	活動結果 ・QOL健診の普及展開において、拡充した内容で様々な側面から、働き盛り世代へアプローチすることができました。 ・中心市街地における健康関連イベントの実施、健康アプリ(kencom)を活用した中心市街地での健康的な活動の促進等により、来街者増加や賑わい創出に寄与しました。	評価 ○
		決算額	38,957	37,458				
		特定財源	19,478	18,729				
		一般財源	19,479	18,729				
	⑦ 健康づくりのまちなか拠点整備事業 (企画部 健康づくりのまちなか拠点整備推進室)	予算額	112,561	1,131,838	5,126,852		活動結果 ・旧市立病院は設計に基づき工事に着手し、予定とおり工事を進めています。 ・旧第一大成小中学校は、既存の建物をすべて解体し、広場全体の整備工事の実施設計を行いました。 ・市民等懇談会を実施し、よりよい整備や管理運営のあり方について意見聴取を行いました。	評価 ◎
		決算額	95,571	663,443				
		特定財源	82,720	628,500				
		一般財源	12,851	34,943				

プロジェクト名		(2)まちの健康(快適な暮らしを送れるまちづくり)											
		事業名	インプット				アウトプット				評価		
				2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度の総括					
プロジェクトを構成する先導的な計画事業	2	⑧ 空き店舗対策事業 (商工部 商工労政課)	予算額	7,250	13,150	8,900	12,250	活動結果	・空き店舗の活用ニーズを踏まえて、予算を増額したことなどから、交付実績は例年より多い8件(2023年度は5件)となり、空き店舗解消と中心市街地の活性化に寄与しました。	評価	◎		
			決算額	4,411	10,036								
			特定財源	4,411	10,036								
			一般財源	0	0								
		⑨ 学びを応援！まちなかにぎわい創出実証事業 (商工部 商工労政課)	予算額	582	572	622		活動結果	・中心市街地のカフェなどを、10店舗の協力のもと、学生の無料勉強スペースとして提供する実証事業を6月18日から3月17日までの9か月間実施し、利用者数は809人でした。	評価	○		
			決算額	515	380								
			特定財源										
			一般財源	515	380								
	⑩ 歩きたくなるまちなか形成事業 (都市整備部 都市計画課)	予算額	32,100	25,400	22,100	22,100	活動結果	・ひろさき『まちなかピクニック』を実施したほか、まちづくりプレイングマネージャーが構築した「まちの未来スクール2024」を実施し、エリア再生に寄与する人材の育成が図られました。 ・都市再生特別措置法に基づく道路占用特例制度を活用した県内初の取組として、遊歩道上のオープンテラスで賑わいを創出する民間発の取組が始まりました。	評価	○			
		決算額	30,111	19,928									
		特定財源	17,300	9,964									
		一般財源	12,811	9,964									
	3	⑪ 津軽地域ごみ処理広域化協議会負担金 (市民生活部 環境課)	予算額	1,299,605	1,447,766	1,428,700	1,140,305	活動結果	・弘前地区環境整備事務組合と黒石地区清掃施設組合を構成する8市町村が、ごみの共同処理に向けて準備を進めている広域化協議について、101項目すべての調整を終えました。 ・令和8年度からの共同処理に向け、順調に進んでいます。	評価	○		
			決算額	1,299,503	1,447,780								
			特定財源	0	0								
			一般財源	1,299,503	1,447,780								
⑫ 地域エネルギープロジェクト事業化支援事業 (市民生活部 環境課)		予算額	10,236	9,967	25,072	3,072	活動結果	・産学官民金が会員となるゼロカーボンシティひろさき推進協議会の設立準備会を2024年12月に開催し、市と民間事業者の脱炭素に向けた意識の共有を図りました(当該協議会は2025年4月に設立済み)。	評価	○			
		決算額	9,797	10,846									
		特定財源	7,342	7,014									
		一般財源	2,455	3,832									
⑬ 信号機のない横断歩道歩行者優先啓発事業 (都市整備部 地域交通課)	予算額	1,464	708	540	540	活動結果	・オリジナルのぼり旗の配布(263本)、小学校での横断歩道渡り方教室の開催(7校)、街頭での啓発活動(4回)を行い、意識啓発を図りました。	評価	○				
	決算額	1,156	449										
	特定財源	0	0										
	一般財源	1,156	449										

プロジェクト名		(2) まちの健康(快適なくらしを送れるまちづくり)									
プロジェクト	3	住みよいまちづくりの推進	事業名	インプット				アウトプット			
				2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度の総括			
				予算額	1,000	640	510	510	活動結果	評価	○
				決算額	8	303					
				特定財源	0	0					
プロジェクト	3	住みよいまちづくりの推進	⑭ 犯罪被害者等支援事業 (市民生活部 市民協働課)	一般財源	8	303			活動結果	評価	○
				予算額	666	2,925	4,434	446			
				決算額	291	2,737					
				特定財源	0	2,251					
				一般財源	291	486			活動結果	評価	◎
プロジェクト	3	住みよいまちづくりの推進	⑮ 防犯カメラ整備管理事業 (市民生活部 市民協働課)	予算額	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000			
				決算額	811,179	2,368,530					
				特定財源	113,114	500,047					
				一般財源	698,065	1,868,483					
				予算額	10,664	10,613	10,613	10,613	活動結果	評価	○
プロジェクト	3	住みよいまちづくりの推進	⑯ 除排雪事業 (建設部 道路維持課)	決算額	8,657	10,058					
				特定財源	5,748	0					
				一般財源	2,909	10,058					
				予算額	16,000	8,500	16,000		活動結果	評価	○
プロジェクト	3	住みよいまちづくりの推進	⑰ まちなかお出かけパス事業 (都市整備部 地域交通課)	決算額	14,406	15,811					
				特定財源	13,259	12,011					
				一般財源	1,147	3,800					
				予算額	2,633,286	3,793,835	7,711,352	2,254,537	活動結果	評価	○
プロジェクト	3	住みよいまちづくりの推進	⑱ 渋滞対策事業 (建設部 土木課)	決算額	2,371,635	4,648,177	0	0			
				特定財源	263,372	1,188,552	0	0			
				一般財源	2,108,263	3,459,625	0	0			
				計画事業合計 (計画事業の総合評価)							

※評価 ◎: 大いに評価できる。 ○: 概ね評価できる。 △: 課題がある。

プロジェクト名 (3)みらいの健康(地域の未来を担うひとづくり)									
総合評価(ロジックモデル)									
インパクト		アウトカム		アウトプット		インプット			
目指す姿	総合評価	指標・成果	達成度・評価	総合評価	取組内容	達成度・評価	事業	評価	
地域の未来を担うひとづくり	○	【定量評価】 町会や公民館、学校やPTA、NPO・ボランティア団体、企業などが行う地域の活動やイベントに参加している市民の割合 初年度 29.6% 基準値 25.1% 実績値 24.4% 目標値 35.0%	△	○	<1 地域課題に取り組む人材の育成> ・課題解決のために企画立案し、実践活動につなげ、地域資源を活用しながら学ぶことを通して、地域への愛着と課題解決力を育みます。	◎	1) 地域に踏み出すひとづくり推進事業	○	
		【定量評価】 地域産業を支える人材育成事業参加者数 初年度 — 基準値(2022年度) 563人 実績値 796人 目標値 676人	◎				2) 地域マネジメント人材育成プログラム構築事業	◎	
			【定量評価】 子どもにとって学習しやすい教育環境だと思える市民の割合 初年度 46.1% 基準値 41.7% 実績値 36.2% 目標値 50.0%				△	3)市民参加型まちづくり1%システム支援事業	◎
							【定性評価】 ・観光事業者からは、津軽圏域DMO推進事業において、本市を含む圏域が連携し、多様化する観光ニーズに対応したことにより、誘客促進が図られているとの評価がありました。 ・「学ぶ力」向上事業などに取り組んだ結果、学識経験者から、「授業がよくわかると回答する児童生徒の割合が高く、弘前市の教員による努力の成果である」という声をいただきました。	○	4) ボランティア支援事業
		【SDGsへの貢献の評価】 ①貢献した内容／貢献できなかった内容 ・「まちなかキャンパスプロジェクト」では地域の企業と関わりながら、問題解決に向けたプロジェクトの企画・実践を通して、地域志向の知見を養いました。また「高校生まちづくりクラブ STEP」では、地域や地域住民と関わることで地元への愛着を育み、地域への理解を深めました。(ゴール11) ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、予定していた児童館6館、児童センター7館への冷房設備設置を夏前までに完了し、児童・生徒の熱中症予防が図られました。(ゴール3) ②関連するアイコン 3すべての人に健康と福祉を 11住み続けられるまちづくりを						○	5)持続可能な町会支援事業
			【SDGsへの貢献の評価】 ①貢献した内容／貢献できなかった内容 ・「まちなかキャンパスプロジェクト」では地域の企業と関わりながら、問題解決に向けたプロジェクトの企画・実践を通して、地域志向の知見を養いました。また「高校生まちづくりクラブ STEP」では、地域や地域住民と関わることで地元への愛着を育み、地域への理解を深めました。(ゴール11) ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、予定していた児童館6館、児童センター7館への冷房設備設置を夏前までに完了し、児童・生徒の熱中症予防が図られました。(ゴール3) ②関連するアイコン 3すべての人に健康と福祉を 11住み続けられるまちづくりを					○	6) QOL健診普及推進事業
							【SDGsへの貢献の評価】 ①貢献した内容／貢献できなかった内容 ・「まちなかキャンパスプロジェクト」では地域の企業と関わりながら、問題解決に向けたプロジェクトの企画・実践を通して、地域志向の知見を養いました。また「高校生まちづくりクラブ STEP」では、地域や地域住民と関わることで地元への愛着を育み、地域への理解を深めました。(ゴール11) ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、予定していた児童館6館、児童センター7館への冷房設備設置を夏前までに完了し、児童・生徒の熱中症予防が図られました。(ゴール3) ②関連するアイコン 3すべての人に健康と福祉を 11住み続けられるまちづくりを	○	7)ひろさき健幸増進リーダー活動支援事業
		【SDGsへの貢献の評価】 ①貢献した内容／貢献できなかった内容 ・「まちなかキャンパスプロジェクト」では地域の企業と関わりながら、問題解決に向けたプロジェクトの企画・実践を通して、地域志向の知見を養いました。また「高校生まちづくりクラブ STEP」では、地域や地域住民と関わることで地元への愛着を育み、地域への理解を深めました。(ゴール11) ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、予定していた児童館6館、児童センター7館への冷房設備設置を夏前までに完了し、児童・生徒の熱中症予防が図られました。(ゴール3) ②関連するアイコン 3すべての人に健康と福祉を 11住み続けられるまちづくりを						○	8) 弘前市健康づくりサポーター制度
			【SDGsへの貢献の評価】 ①貢献した内容／貢献できなかった内容 ・「まちなかキャンパスプロジェクト」では地域の企業と関わりながら、問題解決に向けたプロジェクトの企画・実践を通して、地域志向の知見を養いました。また「高校生まちづくりクラブ STEP」では、地域や地域住民と関わることで地元への愛着を育み、地域への理解を深めました。(ゴール11) ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、予定していた児童館6館、児童センター7館への冷房設備設置を夏前までに完了し、児童・生徒の熱中症予防が図られました。(ゴール3) ②関連するアイコン 3すべての人に健康と福祉を 11住み続けられるまちづくりを					○	9) 食生活改善推進員活動支援事業
							【SDGsへの貢献の評価】 ①貢献した内容／貢献できなかった内容 ・「まちなかキャンパスプロジェクト」では地域の企業と関わりながら、問題解決に向けたプロジェクトの企画・実践を通して、地域志向の知見を養いました。また「高校生まちづくりクラブ STEP」では、地域や地域住民と関わることで地元への愛着を育み、地域への理解を深めました。(ゴール11) ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、予定していた児童館6館、児童センター7館への冷房設備設置を夏前までに完了し、児童・生徒の熱中症予防が図られました。(ゴール3) ②関連するアイコン 3すべての人に健康と福祉を 11住み続けられるまちづくりを	○	10) 除雪オペレーター担い手確保事業費補助金
地域の未来を担うひとづくり	○	【SDGsへの貢献の評価】 ①貢献した内容／貢献できなかった内容 ・「まちなかキャンパスプロジェクト」では地域の企業と関わりながら、問題解決に向けたプロジェクトの企画・実践を通して、地域志向の知見を養いました。また「高校生まちづくりクラブ STEP」では、地域や地域住民と関わることで地元への愛着を育み、地域への理解を深めました。(ゴール11) ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、予定していた児童館6館、児童センター7館への冷房設備設置を夏前までに完了し、児童・生徒の熱中症予防が図られました。(ゴール3) ②関連するアイコン 3すべての人に健康と福祉を 11住み続けられるまちづくりを		○	<2 地域産業を支える人材の育成> ・農業、商工業、観光業など、本市の産業を担う人材の育成に取り組みます。	○		11) ひろさき農業新規参入加速化事業	○
			12) 地域産業魅力体験事業	○					
			13) 地元就職マッチング支援事業	◎					
			14) 中学生×医師交流プログラム	○					
			15)メディカルスタッフについて学ぼう	○					
			16) 来て・見て・学ぼう！医療福祉体験	○					
			17) ひろさきガイド学校運営事業	◎					
			18) 津軽圏域DMO推進事業	○					
			19)「学ぶ力」向上事業	◎					
			20) 小・中学校長寿命化改修・改築事業	○					
21) 小・中学校トイレ洋式化事業	○								
22) 児童館・児童センター冷房設備整備事業	○								
23)社会体育施設トイレ環境整備事業	○								

プロジェクト名 (3)みらいの健康(地域の未来を担うひとづくり)														
■定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえた総合評価														
2024年度の 総合 一次評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総合評価</th> <th>成果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">○</td> <td> <1 地域課題に取り組む人材の育成> ・地域に踏み出すひとづくり推進事業では、年間11回のまちづくり交流会を通して、延べ100名以上の市民に参加いただき、この事業をきっかけにまちづくり活動に参加した市民がいるなど、地域の潜在的な力を引き出すために一定の役割を果たしました。(SDGsゴール11に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・第2期目となった「ひろさきガイド学校」では、49名の修了生を輩出したほか、修了生の活躍の機会となるプライベートガイドツアーを計4本作成しました。また、「インバウンドクラス」を新たに開設するとともに、すでにガイド活動を行っている方などを対象に、市内を観光案内するうえで必要となる知識の習得などを目的とした、「フォローアップ一般クラス」を開設するなど、既存のガイドに対する支援も行い、有償・無償を問わず、地域観光の重要な担い手である多様な観光ガイドの育成から活動支援まで、一貫して取り組みました。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・小・中学校トイレ洋式化事業では、小学校3校47基、中学校3校45基のトイレ洋式化を行ったことにより、児童・生徒の学習環境や衛生環境が向上しました。(SDGsゴール3に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。 </td> </tr> <tr> <td> ◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。 </td> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <1 地域課題に取り組む人材の育成> ・除排雪業務受注者アンケートの結果によると、「新規雇用者の確保」や「除排雪作業従事者の高齢化」が課題として挙げられており、持続可能な除排雪体制の構築のためには、中長期的に人材確保・育成を進めていくことが重要であり、特に、若い世代の担い手確保に取り組む必要があります。(SDGsゴール4に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・効率的・効果的に津軽圏域へ誘客するためには、DMOと圏域市町村が担う業務の整理による効率化や、DMOが行う各取組と市の取組を連動させることが重要となっています。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、年々、猛暑となる日が多くなり、冷房設備未設置の部屋での長時間の活動ができなくなっていることから、活動で必要とするすべての部屋へ冷房設備の設置を検討する必要があります。(SDGsゴール3に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。 </td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td> 2025年度に重点的に取り組む内容 <1 地域課題に取り組む人材の育成> ・除雪オペレーターに必要な資格取得等に要する経費の一部補助(20名への支給を想定)や、若手除雪オペレーターを対象とした講習会の実施など、引き続き、事業者との連携により、除雪オペレーターの担い手確保に取り組みます。また、事業周知の徹底を図るため、広報ひろさきや市ホームページなど様々な媒体を通じて市民等へ周知します。(SDGsゴール4に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・津軽圏域DMO推進事業では、回復基調にある観光需要を的確に捉え、観光入込客数や観光消費額の拡大が図られるよう、津軽圏域の魅力的な地域資源の掘り起し・磨き上げ、訴求力のある体験や特産品の造成・開発のほか、旅行に対する多様なニーズやその変化に対応するため、津軽圏域全体の戦略の策定に取り組みます。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、夏場の児童・生徒の熱中症予防のため、児童館6館・児童センター2館において、冷房設備が未設置となっている部屋へ計画的にエアコンを設置します。(SDGsゴール3に関連) ※社会・経済状況の変化やSDGsへの貢献も踏まえ、後期基本計画3年目(今年度)に、重点的に取り組む内容について記入してください。 </td> </tr> <tr> <td> 2026年度の方 向性 </td> <td> <1 地域課題に取り組む人材の育成> ・地域に踏み出すひとづくり推進事業では、交流会に参加した方の満足度向上を図り、交流会へのより積極的な参加を促すとともに、構築したSNSコミュニティのさらなる活用について検討し、他のまちづくり活動への参加者数がこれまで以上に増えるように取り組んでいきます。(SDGsゴール11に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・小中学校や高校での地域産業魅力体験事業は、引き続き事業者団体への支援を通じて、子どもたちが地元の産業に親しみを感じられるよう取り組んでいきます。また、地元生産品に係る魅力体験事業では、工芸品の認知度向上や次世代の人材育成を更に促進するため、周知を図りながら、より多くの小・中学校で実施していきます。(SDGsゴール4、ゴール17に関連) <3 学習環境等の整備> ・小・中学校長寿命化改修・改築事業では、ゼロカーボンシティ宣言都市として、地球温暖化対策を強化するため、ZEB基準の達成を目指すなど、省エネルギー性能の確保について検討していきます。(SDGsゴール7に関連) ※SDGsへの貢献も踏まえ、より成果をもたらすための、または、課題を解決するための、後期基本計画最終年度(2026年度)における取組の方向性について記入してください。 </td> </tr> <tr> <td>二次評価</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	総合評価	成果	○	<1 地域課題に取り組む人材の育成> ・地域に踏み出すひとづくり推進事業では、年間11回のまちづくり交流会を通して、延べ100名以上の市民に参加いただき、この事業をきっかけにまちづくり活動に参加した市民がいるなど、地域の潜在的な力を引き出すために一定の役割を果たしました。(SDGsゴール11に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・第2期目となった「ひろさきガイド学校」では、49名の修了生を輩出したほか、修了生の活躍の機会となるプライベートガイドツアーを計4本作成しました。また、「インバウンドクラス」を新たに開設するとともに、すでにガイド活動を行っている方などを対象に、市内を観光案内するうえで必要となる知識の習得などを目的とした、「フォローアップ一般クラス」を開設するなど、既存のガイドに対する支援も行い、有償・無償を問わず、地域観光の重要な担い手である多様な観光ガイドの育成から活動支援まで、一貫して取り組みました。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・小・中学校トイレ洋式化事業では、小学校3校47基、中学校3校45基のトイレ洋式化を行ったことにより、児童・生徒の学習環境や衛生環境が向上しました。(SDGsゴール3に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。	◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <1 地域課題に取り組む人材の育成> ・除排雪業務受注者アンケートの結果によると、「新規雇用者の確保」や「除排雪作業従事者の高齢化」が課題として挙げられており、持続可能な除排雪体制の構築のためには、中長期的に人材確保・育成を進めていくことが重要であり、特に、若い世代の担い手確保に取り組む必要があります。(SDGsゴール4に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・効率的・効果的に津軽圏域へ誘客するためには、DMOと圏域市町村が担う業務の整理による効率化や、DMOが行う各取組と市の取組を連動させることが重要となっています。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、年々、猛暑となる日が多くなり、冷房設備未設置の部屋での長時間の活動ができなくなっていることから、活動で必要とするすべての部屋へ冷房設備の設置を検討する必要があります。(SDGsゴール3に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。 </td> </tr> </tbody> </table>	課題	<1 地域課題に取り組む人材の育成> ・除排雪業務受注者アンケートの結果によると、「新規雇用者の確保」や「除排雪作業従事者の高齢化」が課題として挙げられており、持続可能な除排雪体制の構築のためには、中長期的に人材確保・育成を進めていくことが重要であり、特に、若い世代の担い手確保に取り組む必要があります。(SDGsゴール4に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・効率的・効果的に津軽圏域へ誘客するためには、DMOと圏域市町村が担う業務の整理による効率化や、DMOが行う各取組と市の取組を連動させることが重要となっています。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、年々、猛暑となる日が多くなり、冷房設備未設置の部屋での長時間の活動ができなくなっていることから、活動で必要とするすべての部屋へ冷房設備の設置を検討する必要があります。(SDGsゴール3に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。	2025年度に重点的に取り組む内容 <1 地域課題に取り組む人材の育成> ・除雪オペレーターに必要な資格取得等に要する経費の一部補助(20名への支給を想定)や、若手除雪オペレーターを対象とした講習会の実施など、引き続き、事業者との連携により、除雪オペレーターの担い手確保に取り組みます。また、事業周知の徹底を図るため、広報ひろさきや市ホームページなど様々な媒体を通じて市民等へ周知します。(SDGsゴール4に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・津軽圏域DMO推進事業では、回復基調にある観光需要を的確に捉え、観光入込客数や観光消費額の拡大が図られるよう、津軽圏域の魅力的な地域資源の掘り起し・磨き上げ、訴求力のある体験や特産品の造成・開発のほか、旅行に対する多様なニーズやその変化に対応するため、津軽圏域全体の戦略の策定に取り組みます。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、夏場の児童・生徒の熱中症予防のため、児童館6館・児童センター2館において、冷房設備が未設置となっている部屋へ計画的にエアコンを設置します。(SDGsゴール3に関連) ※社会・経済状況の変化やSDGsへの貢献も踏まえ、後期基本計画3年目(今年度)に、重点的に取り組む内容について記入してください。	2026年度の方 向性	<1 地域課題に取り組む人材の育成> ・地域に踏み出すひとづくり推進事業では、交流会に参加した方の満足度向上を図り、交流会へのより積極的な参加を促すとともに、構築したSNSコミュニティのさらなる活用について検討し、他のまちづくり活動への参加者数がこれまで以上に増えるように取り組んでいきます。(SDGsゴール11に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・小中学校や高校での地域産業魅力体験事業は、引き続き事業者団体への支援を通じて、子どもたちが地元の産業に親しみを感じられるよう取り組んでいきます。また、地元生産品に係る魅力体験事業では、工芸品の認知度向上や次世代の人材育成を更に促進するため、周知を図りながら、より多くの小・中学校で実施していきます。(SDGsゴール4、ゴール17に関連) <3 学習環境等の整備> ・小・中学校長寿命化改修・改築事業では、ゼロカーボンシティ宣言都市として、地球温暖化対策を強化するため、ZEB基準の達成を目指すなど、省エネルギー性能の確保について検討していきます。(SDGsゴール7に関連) ※SDGsへの貢献も踏まえ、より成果をもたらすための、または、課題を解決するための、後期基本計画最終年度(2026年度)における取組の方向性について記入してください。	二次評価	
	総合評価	成果												
	○	<1 地域課題に取り組む人材の育成> ・地域に踏み出すひとづくり推進事業では、年間11回のまちづくり交流会を通して、延べ100名以上の市民に参加いただき、この事業をきっかけにまちづくり活動に参加した市民がいるなど、地域の潜在的な力を引き出すために一定の役割を果たしました。(SDGsゴール11に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・第2期目となった「ひろさきガイド学校」では、49名の修了生を輩出したほか、修了生の活躍の機会となるプライベートガイドツアーを計4本作成しました。また、「インバウンドクラス」を新たに開設するとともに、すでにガイド活動を行っている方などを対象に、市内を観光案内するうえで必要となる知識の習得などを目的とした、「フォローアップ一般クラス」を開設するなど、既存のガイドに対する支援も行い、有償・無償を問わず、地域観光の重要な担い手である多様な観光ガイドの育成から活動支援まで、一貫して取り組みました。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・小・中学校トイレ洋式化事業では、小学校3校47基、中学校3校45基のトイレ洋式化を行ったことにより、児童・生徒の学習環境や衛生環境が向上しました。(SDGsゴール3に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。												
		◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <1 地域課題に取り組む人材の育成> ・除排雪業務受注者アンケートの結果によると、「新規雇用者の確保」や「除排雪作業従事者の高齢化」が課題として挙げられており、持続可能な除排雪体制の構築のためには、中長期的に人材確保・育成を進めていくことが重要であり、特に、若い世代の担い手確保に取り組む必要があります。(SDGsゴール4に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・効率的・効果的に津軽圏域へ誘客するためには、DMOと圏域市町村が担う業務の整理による効率化や、DMOが行う各取組と市の取組を連動させることが重要となっています。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、年々、猛暑となる日が多くなり、冷房設備未設置の部屋での長時間の活動ができなくなっていることから、活動で必要とするすべての部屋へ冷房設備の設置を検討する必要があります。(SDGsゴール3に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。 </td> </tr> </tbody> </table>	課題	<1 地域課題に取り組む人材の育成> ・除排雪業務受注者アンケートの結果によると、「新規雇用者の確保」や「除排雪作業従事者の高齢化」が課題として挙げられており、持続可能な除排雪体制の構築のためには、中長期的に人材確保・育成を進めていくことが重要であり、特に、若い世代の担い手確保に取り組む必要があります。(SDGsゴール4に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・効率的・効果的に津軽圏域へ誘客するためには、DMOと圏域市町村が担う業務の整理による効率化や、DMOが行う各取組と市の取組を連動させることが重要となっています。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、年々、猛暑となる日が多くなり、冷房設備未設置の部屋での長時間の活動ができなくなっていることから、活動で必要とするすべての部屋へ冷房設備の設置を検討する必要があります。(SDGsゴール3に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。									
		課題												
<1 地域課題に取り組む人材の育成> ・除排雪業務受注者アンケートの結果によると、「新規雇用者の確保」や「除排雪作業従事者の高齢化」が課題として挙げられており、持続可能な除排雪体制の構築のためには、中長期的に人材確保・育成を進めていくことが重要であり、特に、若い世代の担い手確保に取り組む必要があります。(SDGsゴール4に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・効率的・効果的に津軽圏域へ誘客するためには、DMOと圏域市町村が担う業務の整理による効率化や、DMOが行う各取組と市の取組を連動させることが重要となっています。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、年々、猛暑となる日が多くなり、冷房設備未設置の部屋での長時間の活動ができなくなっていることから、活動で必要とするすべての部屋へ冷房設備の設置を検討する必要があります。(SDGsゴール3に関連) ※定性・定量分析とSDGsへの貢献を踏まえて、記入してください。														
2025年度に重点的に取り組む内容 <1 地域課題に取り組む人材の育成> ・除雪オペレーターに必要な資格取得等に要する経費の一部補助(20名への支給を想定)や、若手除雪オペレーターを対象とした講習会の実施など、引き続き、事業者との連携により、除雪オペレーターの担い手確保に取り組みます。また、事業周知の徹底を図るため、広報ひろさきや市ホームページなど様々な媒体を通じて市民等へ周知します。(SDGsゴール4に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・津軽圏域DMO推進事業では、回復基調にある観光需要を的確に捉え、観光入込客数や観光消費額の拡大が図られるよう、津軽圏域の魅力的な地域資源の掘り起し・磨き上げ、訴求力のある体験や特産品の造成・開発のほか、旅行に対する多様なニーズやその変化に対応するため、津軽圏域全体の戦略の策定に取り組みます。(SDGsゴール8に関連) <3 学習環境等の整備> ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、夏場の児童・生徒の熱中症予防のため、児童館6館・児童センター2館において、冷房設備が未設置となっている部屋へ計画的にエアコンを設置します。(SDGsゴール3に関連) ※社会・経済状況の変化やSDGsへの貢献も踏まえ、後期基本計画3年目(今年度)に、重点的に取り組む内容について記入してください。														
2026年度の方 向性	<1 地域課題に取り組む人材の育成> ・地域に踏み出すひとづくり推進事業では、交流会に参加した方の満足度向上を図り、交流会へのより積極的な参加を促すとともに、構築したSNSコミュニティのさらなる活用について検討し、他のまちづくり活動への参加者数がこれまで以上に増えるように取り組んでいきます。(SDGsゴール11に関連) <2 地域産業を支える人材の育成> ・小中学校や高校での地域産業魅力体験事業は、引き続き事業者団体への支援を通じて、子どもたちが地元の産業に親しみを感じられるよう取り組んでいきます。また、地元生産品に係る魅力体験事業では、工芸品の認知度向上や次世代の人材育成を更に促進するため、周知を図りながら、より多くの小・中学校で実施していきます。(SDGsゴール4、ゴール17に関連) <3 学習環境等の整備> ・小・中学校長寿命化改修・改築事業では、ゼロカーボンシティ宣言都市として、地球温暖化対策を強化するため、ZEB基準の達成を目指すなど、省エネルギー性能の確保について検討していきます。(SDGsゴール7に関連) ※SDGsへの貢献も踏まえ、より成果をもたらすための、または、課題を解決するための、後期基本計画最終年度(2026年度)における取組の方向性について記入してください。													
二次評価														

プロジェクト名 (3)みらいの健康(地域の未来を担うひとづくり)

アウトカム

「対象者(受益者)」

・地域住民、学生、誘致企業、地元企業、農業者、新規就農者、観光関連事業者、子どもと保護者

施策により「期待する成果」は何か

・市民が地域課題の解決に自主的に取り組むようになるとともに、地域活動等の担い手となる人材育成が図られます。
・次代の地域の産業を担う人材が育成され、地域経済の活性化が図られます。また、子どもたちが自分の夢や将来の自分のイメージをもてるようになります。
・児童生徒が学校生活や授業終了後の活動を快適に過ごせることで、学習意欲の向上や健やかな心身の発達、体力の増進が図られます。また、健康づくりを担う体育施設を快適に利用できることで、利用者が増え、市民の健康増進が図られます。

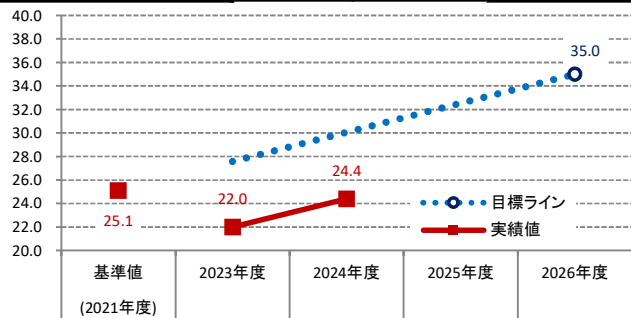
■定性評価

評価内容	評価
<1> 地域課題に取り組む人材の育成 ・持続可能な町会支援事業では、町会役員からは「若い世代を知ることができ、大きな成果だ」「将来的に町会の中心となっていつもらえるよう、今回生まれた若手との関係を大切にしていきたい」との声があり、若い世代からは「町会の役員が親切で協力的だった。イベントがやりやすかった」「婦人部の協力や、町会長が色々な面でサポートしてくれて、助かった」との声がありました。 <2> 地域産業を支える人材の育成 ・観光事業者からは、津軽圏域DMO推進事業において、本市を含む圏域が連携し、多様化する観光ニーズに対応したことにより、誘客促進が図られているとの評価がありました。 <3> 学習環境等の整備 ・「学ぶ力」向上事業などに取り組んだ結果、学識経験者から、「授業がよくわかると回答する児童生徒の割合が高く、弘前市の教員による努力の成果である」という声をいただきました。	○

※評価 ◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。

■定量評価(プロジェクト指標①)

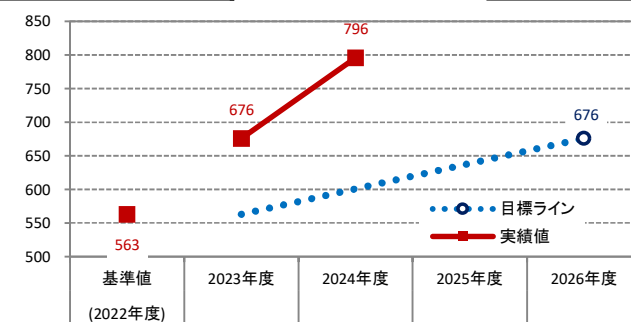
指標名	計画初年度	基準値	実績値一覧				目標値		達成度
	2019年度	2021年度	2023年度 (2023年度)	2024年度 (2024年度)	2025年度 (2025年度)	2026年度 (2026年度)	2026年度	(方向)	
町会や公民館、学校やPTA、NPO・ボランティア団体、企業などが行う地域の活動やイベントに参加している市民の割合(%)	29.6	25.1	22.0	24.4			35.0	↑	△
	—	—	△	△			—		



※評価 ◎:目標を上回った。
○:目標には達しなかったが改善した。
△:基準値より悪化した。

■定量評価(プロジェクト指標②)

指標名	計画初年度	基準値	実績値一覧				目標値		達成度
	2019年度	2022年度	2023年度 (2023年度)	2024年度 (2024年度)	2025年度 (2025年度)	2026年度 (2026年度)	2026年度	(方向)	
地域産業を支える人材育成事業参加者数(人)	—	563	676	796			676	↑	◎
	—	—	◎	◎			—		



※評価 ◎:目標を上回った。
○:目標には達しなかったが改善した。
△:基準値より悪化した。

プロジェクト名 (3)みらいの健康 (地域の未来を担うひとづくり)									
■定量評価(プロジェクト指標③)									
指標名	計画初年度	基準値	実績値一覧				目標値		達成度
	2019年度	2021年度	2023年度 (2023年度)	2024年度 (2024年度)	2025年度 (2025年度)	2026年度 (2026年度)	2026年度	(方向)	
子どもにとって学習しやすい教育環境だと思う市民の割合(%)	46.1	41.7	39.1	36.2			50.0	↑	△
	—	—	△	△			—		
			※評価 ◎:目標を上回った。 ○:目標には達しなかったが改善した。 △:基準値より悪化した。						
■SDGsへの貢献の評価									
貢献した内容／貢献できなかった内容			関連するアイコン				評価		
<1>地域課題に取り組む人材の育成 ・「まちなかキャンパスプロジェクト」では地域の企業と関わりながら、問題解決に向けたプロジェクトの企画・実践を通して、地域志向の知見を養いました。また「高校生まちづくりクラブ STEP」では、地域や地域住民と関わることで地元への愛着を育み、地域への理解を深めました。(ゴール11) <2>地域産業を支える人材の育成 ・地域産業魅力体験事業では、小・中学生及び高校生が、「地域の魅力」に愛着と関心を持ちながら、地元産業の技術を学習・体験できる機会を創出しました。(ゴール4、ゴール17) <3>学習環境等の整備 ・児童館・児童センター冷房設備整備事業では、予定していた児童館6館、児童センター7館への冷房設備設置を夏前までに完了し、児童・生徒の熱中症予防が図られました。(ゴール3)			 				○		
※評価 ◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。									

プロジェクト名 (3)みらいの健康(地域の未来を担うひとづくり)

アウトプット インプット

No	事業名	インプット				アウトプット		
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度の総括	
プロジェクト1 地域課題に取り組む人材の育成	① 地域に踏み出すひとづくり推進事業 (企画部 企画課)	予算額	1,030	730	637	637	活動結果 ・年間11回の交流会を通して、延べ100名以上の市民に参加いただき、この事業をきっかけにまちづくり活動に参加した市民がいるなど、地域の潜在的な力を引き出すために一定の役割を果たしました。	評価 ○
		決算額	418	454				
		特定財源	418	454				
		一般財源	0	0				
	② 地域マネジメント人材育成プログラム構築事業 (企画部 企画課)	予算額	8,100	8,100	8,100	8,100	活動結果 ・まちなかキャンパスプロジェクトでは、延べ180名の大学生が、地域の企業と関わりながら、課題解決に向けたプロジェクトの企画・実践を通して、地域志向の知見を養いました。 ・STEPでは、延べ87名の高校生がプログラムを修了し、地域や地域住民と関わることで地域への愛着と理解を深めました。	評価 ◎
		決算額	7,999	7,987				
		特定財源	7,999	7,987				
		一般財源	0	0				
	③ 市民参加型まちづくり1%システム支援事業 (市民生活部 市民協働課)	予算額	30,702	30,542	25,519	25,519	活動結果 ・採択件数は55件で前年度を上回りました。 ・事業成果発表会では事例発表、交流会を行いました。 ・採択団体向けの研修交流会を開催し、資金調達についての講演会と交流の機会を提供しました。	評価 ◎
		決算額	15,536	14,411				
		特定財源	0	0				
		一般財源	15,536	14,411				
	④ ボランティア支援事業 (市民生活部 市民協働課)	予算額	11,383	10,066	10,121	10,121	活動結果 ・相談や情報提供、講座の開催等により、活動を支援しました。 ・ボランティアポイント制度を開始し、活動のきっかけづくりと継続を促進しました。 ・介護福祉施設や地域包括支援センター等を訪問し、連携強化、ボランティア活動の場の掘り起こしに努めました。	評価 ◎
		決算額	10,972	9,351				
		特定財源	0	0				
		一般財源	10,972	9,351				
	⑤ 持続可能な町会支援事業 (市民生活部 市民協働課)	予算額	274	851	794	966	活動結果 ・支援対象の仲町エリアでは、若い世代が企画・運営した活動を支援することで多世代間の関係構築が図られました。 ・LINE活用講座等の実施により、役員間連絡の負担軽減や、町会の情報発信の強化に繋がりました。	評価 ◎
		決算額	219	633				
		特定財源	0	0				
		一般財源	219	633				
	⑥ QOL健診普及推進事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	1,510	6,377	4,494	4,072	活動結果 ・健やか協力隊員(61名)と結果説明者(19名)を養成し、QOL健診の実施体制が強化されました。 ・月2回ヒロロ健康広場でQOL健診を定期開催し、延べ404名が受診しました。	評価 ◎
		決算額	1,504	5,772				
		特定財源	734	813				
		一般財源	770	4,959				

プロジェクト名		(3)みらいの健康(地域の未来を担うひとづくり)									
No	事業名	インプット					アウトプット				
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度の総括				
1 地域課題に取り 組む人材の育成 プロジェクトを構成する先導的な計画事業	⑦ ひろさき健幸増進リーダー活動支援事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	6,353	6,934	6,093	6,093	活動結果	・弘前大学のサポートを得て実践的な研修を実施し、リーダーの資質向上が図れました。 ・活動できるリーダーが固定化していることが課題です。	評価	○	
		決算額	3,872	4,497							
		特定財源	0	0							
		一般財源	3,872	4,497							
	⑧ 弘前市健康づくりサポーター制度 (健康こども部 健康増進課)	予算額	4,751	4,751	4,520	4,520	活動結果	・市内25地区の地区協議会で健診受診勧奨や研修会で学んだ知識を周囲に伝える活動を行いました。また、会員の高齢化や減少などの課題に対し、各地区協議会で活動方法等に関する検討会を開催しました。	評価	○	
		決算額	2,905	2,961							
		特定財源	0	0							
		一般財源	2,905	2,961							
	⑨ 食生活改善推進員活動支援事業 (健康こども部 健康増進課)	予算額	661	904	856	904	活動結果	・養成講座で新たに7名の会員を養成しました。研修会では肥満や生活習慣病予防の内容も取り入れ、会員の知識習得や資質向上を図りました。 ・補助金の交付により会の自主的な活動を支援しました。	評価	◎	
		決算額	562	735							
		特定財源	0	0							
		一般財源	562	735							
	⑩ 除雪オペレーター担い手確保事業費補助金 (建設部 道路維持課)	予算額	0	1,150	1,150	1,150	活動結果	・除雪オペレーターに必要な資格取得等に要する経費の一部を補助することで、20人の除雪オペレーターになり得る人材が確保され、当市の持続可能な除排雪体制の構築に寄与しました。	評価	◎	
		決算額	0	1,137							
		特定財源	0	0							
		一般財源	0	1,137							
2 地域産業を支える人材の育成	⑪ ひろさき農業新規参入加速化事業 (農林部 農政課)	予算額	6,584	10,920	12,040	12,040	活動結果	・農業新規参入支援等に取り組んだ結果、新規参入希望者35名が農業里親研修を受講したほか、首都圏等の就農イベントにおいて、当市で就農する魅力を発信しました。	評価	○	
		決算額	6,212	9,273							
		特定財源	6,212	9,273							
		一般財源	0	0							
	⑫ 地域産業魅力体験事業 (商工労政課、産業育成課、りんご課)	予算額	2,300	1,600	2,100	2,100	活動結果	・地元への就職・定着や次世代を担う人材の育成につなげるため、地元の小中学生や高校生が、農業や製造業、伝統工芸など地元産業を含めた「地域の魅力」に愛着と関心を持てる機会を創出しました。	評価	○	
		決算額	1,690	1,507							
		特定財源	402	0							
		一般財源	1,288	1,507							

プロジェクト名		(3)みらいの健康(地域の未来を担うひとづくり)									
No	事業名	インプット					アウトプット				
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度の総括				
2 プロジェクトを構成する先導的な計画事業	⑬ 地元就職マッチング支援事業 (商工部 商工労政課)	予算額	40,555	39,600	30,400	30,400	活動結果	・東京圏UIJターン就職等支援金などの交付により、当市へのUターン等を後押ししました。 ・地元企業が実施する人材定着事業を支援し、職場環境が向上したことで、地元就職・地元定着を促進しました。	評価	◎	
		決算額	22,532	36,540							
		特定財源	10,200	20,600							
		一般財源	12,332	15,940							
	⑭ 中学生×医師交流プログラム (教育委員会 中央公民館)	予算額	39	39	39	39	活動結果	・2024年度の参加者全員がプログラムに満足しました。 ・医師や医学生の話聞き、医師になるために必要なことを理解しました。 ・実習体験で模型やサンプルに触れ、医師の現場を見学し、仕事への理解を深めました。	評価	○	
		決算額	11	16							
		特定財源	0	0							
		一般財源	11	16							
	⑮ メディカルスタッフについて学ぼう (教育委員会 中央公民館)	予算額	155	155	119	119	活動結果	・メディカルスタッフ(看護師、放射線技師等)や大学生との交流及び各学科・専攻の施設見学、実習体験をとおして、医療職に対する理解度が向上しました。	評価	○	
		決算額	23	89							
		特定財源	0	0							
		一般財源	23	89							
	⑯ 来て・見て・学ぼう！医療福祉体験 (教育委員会 中央公民館)	予算額	100	100	80	80	活動結果	・現役学生が案内役として活躍し、進路選択や大学での学びについて気軽に意見交換することができました。定員20人で募集したところ、大学側からはもう少し参加者を上乘せたいとの意見をいただきました。	評価	○	
		決算額	24	62							
		特定財源	0	0							
		一般財源	24	62							
	⑰ ひろさきガイド学校運営事業 (観光部 観光課)	予算額	1,000	9,400	2,700	2,700	活動結果	・関係者との連携・協力を図りながら、国の財源を有効活用し、ひろさきガイド学校を通じた多様なガイドの育成とスキルアップを強化しました。 ・活動支援として、プライベートガイドツアーを開発し、販売しました。	評価	◎	
		決算額	9,990	9,400							
		特定財源	6,990	6,700							
		一般財源	3,000	2,700							
	⑱ 津軽圏域DMO推進事業 (観光部 国際広域観光課)	予算額	19,269	16,795	16,568	16,568	活動結果	・受入環境の整備やプロモーション、観光満足度調査など、DMOの様々な取組により、地域の魅力や課題を把握したうえで、効果的・効率的にPRしました。	評価	○	
		決算額	19,269	16,795							
		特定財源	7,268	5,674							
		一般財源	12,001	11,121							

プロジェクト名		(3)みらいの健康(地域の未来を担うひとづくり)									
No	事業名	インプット					アウトプット				
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度の総括				
プロジェクトを構成する先導的な計画事業	⑮「学ぶ力」向上事業 (教育委員会 学校指導課)	予算額	14,021	968	1,265	2,555	活動結果	・全国学力・学習状況調査の結果分析を各学校に周知し、研修会において、学びを支える集団づくり・授業づくりへの理解を深めました。 ・Aiドリルの利用実績を調査・分析・情報提供し、利用率向上につなげました。	評価	◎	
		決算額	13,569	886							
		特定財源	6,784	0							
		一般財源	6,785	886							
	⑯小・中学校長寿命化改修・改築事業 (教育委員会 学校整備課)	予算額	1,641,799	2,373,101	446,888	2,872,284	活動結果	・桔梗野小学校基本・実施設計業務等に着手しました。 ・第二中学校基本・実施設計業務等を実施しました。 ・石川小・中学校新築工事が完了するとともに、旧校舎解体工事等に着手しました。	評価	○	
		決算額	1,417,522	2,373,101							
		特定財源	1,222,462	2,034,033							
		一般財源	195,060	339,068							
	⑰小・中学校トイレ洋式化事業 (教育委員会 学校整備課)	予算額	9,240	45,650	0	0	活動結果	・中学校3校、小学校3校でのトイレ洋式化工事を実施しました。	評価	○	
		決算額	8,602	38,470							
		特定財源	7,700	34,600							
		一般財源	902	3,870							
	⑱児童館・児童センター冷房設備整備事業 (健康こども部 こども家庭課)	予算額	7,594	7,268	4,557	4,200	活動結果	・予定施設への設置は夏休みまでに完了し、児童・生徒の熱中症予防が図られました。 ・年々、猛暑日が増え、冷房設備未設置の部屋での長時間の活動に支障が出ていることから、使用するすべての部屋への設置の検討が必要です。	評価	○	
		決算額	7,114	8,117							
		特定財源	0	0							
		一般財源	7,114	8,117							
㉓社会体育施設トイレ環境整備事業 (健康こども部 スポーツ振興課)	予算額	7,000	0	5,600	7,000	活動結果	・社会体育施設の計画的なトイレ洋式化を進めるため、事業内容等の見直しを行いました。	評価	○		
	決算額	6,870	0								
	特定財源	6,180	0								
	一般財源	690	0								
計画事業合計 (計画事業の総合評価)		予算額	1,814,420	2,576,001	584,640	3,012,167					
		決算額	1,557,415	2,542,194	0	0					
		特定財源	1,283,349	2,120,134	0	0					
		一般財源	274,066	422,060	0	0					

※評価 ◎:大いに評価できる。 ○:概ね評価できる。 △:課題がある。

次期SDGs未来都市計画の策定方針 及び令和7年度の実施結果について

SDGs 未来都市
ひろさき
企画部 企画課

1 SDGs未来都市について

- ・「SDGs未来都市」…SDGsの達成と地方創生を目指し優れた取組を行う自治体として内閣府が認定(令和7年度末現在 全国215都市が認定)
- ・当市は、令和5年5月に県内で初めて認定。また、その取組(※)は北東北3県で初めて、国の補助金を受けられる「自治体SDGsモデル事業」に選定
 - ※『SDGsで切り拓く 持続可能な「日本一のりんご産地」の実現』をテーマとし、りんごDX・トヨタ式カイゼン、無煙炭化器の導入、りんご搾汁残渣の活用などに取り組んできた (国の補助金(23,112千円)はR5限り)
- ・「東北SDGs未来都市サミット」…東北地方17都市(下記参考)は、「東北SDGs未来都市ネットワーク」を組織し、毎年度、持ち回りでサミットを開催⇒首長サミットや市内視察等により、各都市取組の情報交換・各都市間の交流を深めている(今年度は8月17・18日に仙台市、令和9年度は当市開催が決定)

【参考】東北地方のSDGs未来都市(令和7年度末現在)

〈岩手県〉 陸前高田市、岩手町、遠野市、一関市 〈宮城県〉 東松島市、仙台市、石巻市、大崎市

〈秋田県〉 仙北市、大仙市 〈山形県〉 飯豊町、鶴岡市、米沢市、長井市 〈福島県〉 郡山市、福島市

2 SDGs未来都市計画について

【現行の計画について】

- ・「SDGs未来都市」として必要な「SDGs未来都市計画」(令和5年8月)は、現行計画の計画期間が今年度末で終了。次期計画の策定手法については、下記が認められている

【策定手法】

- ①次期SDGs未来都市計画の策定 ⇒現行計画を基に新規作成
- ②現行計画の期間延長 ⇒KPIの更新等の最小限の修正(当市はR7に1年延長しており再延長不可)
- ③独自計画に移行 ⇒総合計画と一体化するなど、自治体独自の計画に移行(国の認定無し)

※上記①～③の選択については、各SDGs未来都市の判断に委ねられており、
総合計画と一体化(手法③)することで、策定作業の省力化と計画の効率的な運用を図る
自治体も増えてきている。

3 次期SDGs未来都市計画の策定方針について

方針

次期SDGs未来都市計画については、次期総合計画と一体化(手法③)させることで、策定作業の省力化と計画の効率的な運用を図った上で、市長公約と連動させた新たな取組にも挑戦しながら、引き続き、県内唯一のSDGs未来都市として、持続可能なまちづくりに取り組んでいく。

※「東北SDGs未来都市サミット」(来年度当市開催)は、当市の取組を対外的に発信する好機と捉える

【手順】

今年度:SDGs未来都市計画事業(P3参照)について整理(新規・拡充、廃止・縮小を含む)した上で、市長公約の推進と連動させながら、次期総合計画策定案へ反映していく
令和9年度～令和12(2030)年度:次期総合計画前期基本計画と一体化

(他都市の事例を参考に、前期基本計画内に、SDGs未来都市のページを設ける)

【一体化の効果】

- ・策定作業の省力化
- ・SDGs未来都市計画事業が総合計画事業となることから、進管理・事業評価(内部・外部)・事業改善が図られ、効果的な取組を推進できる

4 次期SDGs未来都市計画策定に係るスケジュール

【今年度】

- ・令和8年6月12日 定例市政推進会議
次期SDGs未来都市計画の策定方針及び
SDGs未来都市の取組に係る令和7年度の取組結果等について
- ・令和9年3月まで 一体化に向け、次期総合計画策定作業と同時進行で、検討作業
※市長公約の推進と連動させた、SDGs未来都市計画事業の整理
(新規・拡充、廃止・縮小を含む)
※企画課より、必要に応じ、関係課へ作業依頼をさせていただきます。
次期総合計画策定案へ反映

【令和9年度】

- ・令和9年4月～ 次期総合計画前期基本計画と一体化(令和12(2030)年度で計画期間終了)

5 令和7年度の主な取組結果【経済面】

※国の補助金を活用した自治体SDGsモデル事業は令和5年度で終了。令和7年度もSDGs未来都市の取組として継続。

経済面の取組結果（一例）



実施内容と結果

- デジタル技術を活用し、高品質なりんごを安定的に生産
- デジタル技術を活用し、いつでも生産技術を学べる体制を構築



先端技術の導入による農業生産性の向上と、販路拡大による農業所得の向上を目指す。

- ・VR剪定学習支援システムは、学習体系の構築に向けて、VR剪定学習講習会を実施。
（講習会3回）
- ・適正着果量を判断するAIシステムは、精度向上に向けた画像データの拡充等を実施。



6 三側面の指標 令和7年度実績【経済面】

経済面の取組

統合的取組



「りんごDX」の実装・普及展開

「省力樹形栽培」の普及促進



「機能性表示食品」としてのブランド展開



海外への販路拡大の強化

数値目標の達成状況

高品質りんごを安定生産し、販売額を増やします。

経済

行政、生産者、研究機関
等との連携事業数(累計)
機能性表示食品制度りん
ご生果届出数(累計)

15件 → 21件 → **22件** → 20件

2件 → 5件 → **5件** → 5件

(R5.2) (R6年度) (**R7年度実績**) (R8目標値)

三側面をつなぐ相乗効果

作業改善等に意欲的な生産者を増やします。

社会

農業塾に参加し作業改
善に取り組む生産者数
(累計)

0人 → 122人 → **122人** → 122人

(R5.2) (R6年度) (**R7年度実績**) (R8目標値)

農薬や肥料の使用を低減します。

環境

青森県特別栽培
農産物認証生産者数

22者 → 19者 → **17者** → 25者

(R5.2) (R6年度) (**R7年度実績**) (R8目標値)

Point

先端技術の導入による農業生産性の向上と、販路拡大による農業所得の向上を目指します。

7 令和7年度の主な取組結果【社会面】

※国の補助金を活用した自治体SDGsモデル事業は令和5年度で終了。令和7年度もSDGs未来都市の取組として継続。

社会面の取組結果（一例）



実施内容と結果

- 作業を省力化し、誰もが働きやすい環境を整備する。
- 作業効率を改善し、生産性を向上させる。



次世代を担う意欲ある新たな担い手が地域で持続的に育成される体制を構築する。

- ・令和6年度までに実施した取組について、各自継続。



8 三側面の指標 令和7年度実績【社会面】

社会面の取組

統合的取組

トヨタ式カイゼン

ジャストインタイム
必要なものを必要なときに
必要なだけ造る・運ぶ

自動化
品質は工程で通りこむ

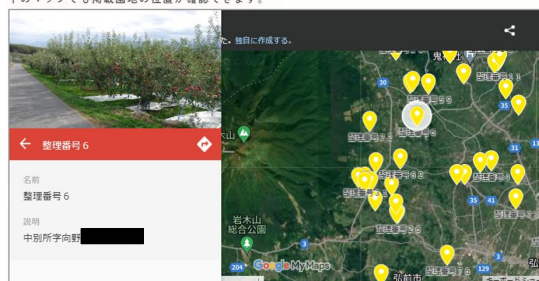
ムタの徹底排除

品質向上、生産性向上など
原価低減



「トヨタ式カイゼン」の導入

下のマップでも掲載園地の位置が確認できます。



マッチングシステムによる園地継承

階層別のりんご人材育成



りんご生産者の健康増進

数値目標の達成状況

社会	省力化や生産性を向上し、担い手を増やします。	
	農業塾に参加し作業改善に取り組む生産者数(累計)	0人 → 122人 → 122人 → 122人
	園地継承円滑化システムのマッチング成立件数(累計)	26件 → 156件 → 175人 → 200人 (R5.2) (R6年度) (R7年度実績) (R8目標値)

三側面をつなぐ相乗効果

経済	現場改善により生産コストを削減し、収益性を向上させます。	
	認定農業者のうち5年前より農業所得が向上した認定農業者の割合	59.3% → 60.6% → 77.4% → 65.0% (R5.2) (R6年度) (R7年度実績) (R8目標値)

環境	環境に優しい農業に取り組む農家を増やします。	
	青森県特別栽培農産物認証生産者数	22者 → 19者 → 17者 → 25者 (R5.2) (R6年度) (R7年度実績) (R8目標値)

Point

次世代を担う意欲ある新たな担い手が地域で持続的に育成される体制を構築します。

9 令和7年度の主な取組結果【環境面】

※国の補助金を活用した自治体SDGsモデル事業は令和5年度で終了。令和7年度もSDGs未来都市の取組として継続。

環境面の取組結果（一例）



実施内容と結果

- 搾汁残渣など未利用資源のエネルギー化、CO2排出の削減に取り組む。
- バイオガス発電で排出される液肥を活用し、循環型農業を推進する。



りんご産業を起点とした脱炭素社会の構築と、気候変動に対応した生産技術の確立を目指す。

- ・令和5年度に、りんご搾汁残渣等のエネルギー化について調査する「搾汁残渣等エネルギー化システム構築事業」を実施。給食残渣等の食品残渣と混合することで成分がメタン発酵に適した比率となり、原料として活用できる可能性がある一方、採算性や残渣の安定確保など、事業化に向けた課題が多く残されていることが判明。
- ・令和7年度は、環境省の重点対策加速化事業に採択されている山形県長井市での取組事例の調査を実施した。今後も引き続き、先行事例の調査・研究を続けていく。

10 三側面の指標 令和7年度実績【環境面】

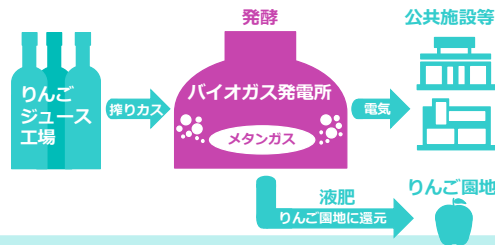
環境面の取組

統合的取組



「無煙炭化器」の導入

統合的取組



搾り残査等を活用したバイオガス発電

着色不良・着色遅延



温暖化に対応した生産技術の研究
(資料：農林水産省「地球温暖化影響調査レポート」)



剪定枝を原料とした商品開発

数値目標の達成状況

環境	バイオガス発電等の導入を進め 環境負荷を低減します。	
	無煙炭化器の活用数(累計)	0件 → 34件 → 64件 → 56件
	バイオガス発電導入に向けた地公体実行計画(区域施策編)の策定	0件 → 0件(未策定) → 0件 → 1件 (R5.2) (R6年度) (R7年度実績) (R8目標値)

三側面をつなぐ相乗効果

経済	官民連携で環境負荷の低減を進めます。	
	行政、生産者、研究機関等との連携事業数(累計)	15件 → 21件 → 22件 → 20件 (R5.2) (R6年度) (R7年度実績) (R8目標値)
社会	作業改善に取り組む生産者を増やします。	
	農業塾に参加し作業改善に取り組む生産者数(累計)	0人 → 122人 → 122人 → 122人 (R5.2) (R6年度) (R7年度実績) (R8目標値)

Point

りんご産業を起点とした脱炭素社会の構築と気候変動に対応した生産技術の確立を目指します。

11 令和7年度の主な取組結果【SDGs普及啓発に向けた情報発信など】

対象	主な取組の内容	担当
市民、 民間事 業者等	・小・中学生へのSDGs普及啓発のため、公募により決定した市内10小・中学校等でりんご娘等による特別授業「SDGs未来へプログラム」を実施。 【R5～累計 参加：22校 延べ3,113名】 ・市民へのSDGs普及啓発のため、未来へプログラムの成果発表及び民間事業者の取組発表を行う「りんごのまち弘前SDGs発表会」を開催。 【来場者数 約250名超】	企画課
	・SDGsの理解を深めるとともに、次期総合計画策定に向けた事業提案を行う高校生・大学生ワークショップを実施。【参加者33名 提案事業数8】	企画課
	・りんご産業に関連したSDGsに取り組む市内事業者3者及び（公社）弘前観光コンベンション協会と連携し造成した「弘前市SDGs教育旅行プログラム」について、「市内中学生向けSDGs体験学習プログラム」として市内中学校に展開。【実施校 市内3中学校 合計143名】	企画課
	・民間事業者との協働により、市庁舎エレベーター内にりんご搾汁残渣を原料とする合成皮革を使用した手すりカバーを設置し、SDGsの取組を市民等にPR。	企画課
職員	・SDGsの視点を取り入れた総合計画の内部評価を実施	全部署
	・総合計画担当者への研修を実施。総合計画担当者は研修を受講し、SDGsの考え方を総合計画の各施策に積極的に反映。	企画課 (人事課)

11 令和7年度の主な取組結果【SDGs普及啓発に向けた情報発信など】



SDGs 未来へプログラム



りんごのまち弘前SDGs発表会



高校生・大学生ワークショップ



市内中学生向けSDGs 体験学習プログラム



市庁舎エレベーター用手すりカバー

12 令和8年度の主な取組【新規(一部継続)事業】

ゼロカーボンシティ推進事業（環境課）

☞ 2050年カーボンニュートラルの達成に向けて、家庭における再生可能エネルギーの利用促進を図るため、**市民向けに太陽光発電設備等導入支援事業**を実施するほか、**既存住宅の省エネにつながる断熱改修支援事業**を実施。

また、令和7年度に設立したゼロカーボンシティひろさき推進協議会を通して、事業者、各種団体と連携し様々な角度から意見を出し合い取組を充実させていきます。

ゼロカーボンシティひろさき推進協議会設立総会の様子



■ 太陽光発電設備等導入費補助金 ■ 既存住宅断熱改修事業費補助金 ■ ゼロカーボンシティひろさき推進協議会

・新築・既設を問わず、住宅に太陽光発電設備等を設置する市民に対し、市が費用の一部を補助し、家庭における再生可能エネルギーの利用を促進。

・既存住宅の断熱改修を実施した市民に対し、市が事業費の一部を補助し、既存住宅の断熱化による省エネを促進。

・意見交換を通じて、地域の事業者や各団体と連携し、目標の達成に向けた地域脱炭素の取組を充実し、拡充させていく。

Point 令和5年度からの継続事業に加え、**脱炭素社会の実現に資する取組など新たな事業も展開します。**

13 令和8年度の主な取組内容【SDGs普及啓発に向けた情報発信など】

対象	主な取組の内容	担当
市民、 民間事業者等	・小・中学生へのSDGs普及啓発のため、公募により決定した市内10小・中学校等でりんご娘等による特別授業「SDGs未来へプログラム」を実施。 ・市民へのSDGs普及啓発のため、未来へプログラムの成果発表及び民間事業者の取組発表を行う「りんごのまち弘前SDGs発表会」を開催。	企画課
	・日本一のりんご産地ならではのアップサイクルの取組を行う各企業・団体への取材を行い、取組事例を市民等へ発信・PR。	企画課
職員	・SDGsの視点を取り入れた総合計画の評価作業を実施します。	全部署
	・新任課長補佐級職員を対象に、SDGsの施策反映について学ぶ研修を実施し、SDGsの考え方を総合計画の各施策に積極的に反映します。	企画課 (人事課)

Point 企画部・農林部・市民生活部だけでなく、**全庁でSDGsを推進**します。

13 （参考）SDGsの認知度について【弘前市民意識アンケート結果】

今年度に実施した「弘前市民意識アンケート」では、「SDGsという言葉を知ってる」市民の割合が**82.5%**と、令和5年度の76.8%から5.7ポイント上昇し、**8割を超える市民に認知**されていることがわかりました。※無回答者を除く

令和8年度 弘前市市民意識アンケート集計結果報告書（速報）より

上段：回答数 下段：回答比率	年度	言葉も内容も 知っており、 実際に取り組 んでいる	言葉も内容も 知っている が、実際に取 り組んではい ない	言葉は知って いるが、内容 はよく知らな い	まったく知ら ない	合計
「SDGs」という言葉を 知っていますか	R8	555人	652人	458人	352人	2,017人
		27.5%	32.3%	22.7%	17.5%	100%
	R7	411人	561人	438人	304人	1,714人
		24.0%	32.7%	25.6%	17.7%	100%
	R6	439人	600人	495人	312人	1,846人
		23.8%	32.5%	26.8%	16.9%	100%
	R5	232人	670人	518人	428人	1,848人
		12.6%	36.2%	28.0%	23.2%	100%

「SDGsという言葉を知っている」は82.5%（R8年度）

「SDGsという言葉を知っている」は76.8%（R5年度）